

東京朝日新聞

第五卷



稟告

當商華之儀各位の御引立を以て日に月
に隆盛を極め茲に無事第二の新年を迎
んとす是全く各位の御愛顧厚きに因ら
ずんば焉と此幸業を荷ふ能はざる儀と
深く奉感謝候就ては右御厚意に酬ん
爲め來三十年一月五月初刊の第四十五
號は通帯十六頁を數倍して且つ

美麗錦繪大附録

を添て進呈仕候間不相變御愛讀之程伏
而奉懇願候

尙本號へ數十萬部を印刷して全國一般
の同業者へ配布致候儀に付隨て廣告も
大擴張の豫算に有之依て本號に限り規
定の廣告料を引下け一行金六錢の割を
以て掲載可致間御年賀其他總ての廣告
御依頼の御方へ來十八日迄に前金相添
へ豫め當發行所へ御申込有之度候謹言

發行所

雜報

陸軍補充條例の改正

陸軍省にて明治二十一年頃より漸次に各部の補
充條例を制定して實施し來りしが明治二十七八年
の戰役に際して戰時若くは平時の時に於ける陸軍
監督部及び軍吏部の士官特別補充の例を開き其間
二十餘種の錯誤を補充規程を見るに至りたり
軍備擴張と條例整理の必要は新たに一の補充條例
を定りて舊規程を一律に廢止するの旨を得ず

口廣告料

一回以上六回迄九錢七回以上八錢
發行所 東京小間物商組合事務所

るに至り即ち百十一箇條より成れる今回の新令第
三百七十九號となりて發布せられたるなり條例改
正の主旨は右の如くなりて雖も今回の新條例を以
て従来の制を擴張したるものも少しとせず試み
に三四の要點を掲ぐれば
中卒卒業の特典 従来士官候補生に採用せら
るゝものは中卒卒業生と雖も召募試験を要するべ
からざることとなりし今回の條例に於て官立、府
縣立尋常中學校若くは文部大臣の指定したる尋常
中學校を卒業したるものには二學科の檢定を除
き無試験にて士官候補生に採用せらるゝことを許
したり尤も此條例に於ける文部大臣指定中學校と
は此條例の規定に據りて特に指定するものなれば
徵兵令に於ける徵兵標準の指定學校と同じからず
と知るべし

○**軍兵の士官候補生** 従來の制に於て軍兵に
は士官候補生の設けがらざりしが今回の新條例に
於て軍兵は士官候補生を置くこととなりたり
○**軍部の見習士官** 従來の制に於て見習士官の
候補たる見習士官官は醫官、藥劑官と均しく帝
國大學醫科卒業生より採られたる新條例に於て
専ら陸軍醫學校卒業生より採ることとなりたり
○**一年志願兵と軍吏部士官** 新條例に於て一年志
願兵の終末試験及第證書と所持するものに見習軍
吏即ち軍吏部士官候補生たることを許したり是れ
亦従来の制に於て未だ曾て見ざりし所の特別なり
といふ

○**東洋貿易に於ける獨逸人の大計畫** 獨逸が此
十五年來歐米諸國に向ひて其商權を擴張し又
近く我東洋に貿易の實權を握らんと力めつゝある
は吾人の知る所なるが近頃同國商人等ハ我日本に
對して驚くべき計畫をなしてありと云ふ今其
概略を略して獨逸に在る造船鐵道其他各社の重
會社凡そ二十社許りが聯合して我貿易の實權
を握らんとするの大計畫にして即ち我國が戦後二
億兩の債金を借軍備の擴張其他種々の經營を爲
さんとするに乘じ日本に於ける日用品の製造獨逸
商人の手を経て輸入し其佛國より運ばざるもの
よりすべさるゝも米國白耳鐵よりすべさるゝもの

其國に設置しある獨逸商人の支社より供給せし
めんとするにありて之が爲めに此聯合會社の權限
に其總理人を派出し我輸出業にも從事せん
とし其代表たるべき人は既に渡來して横濱に在り
我國の紳商某氏も此獨逸に與りて事業に着手せん
とせる意あり獨逸が近今世界に其商權を擴張
しつゝあるの勢力を以て之ハ此大計畫を日本に實
行するに至らば我貿易業に就ての實に由らざる大
事にして或い遂に我商界より英米佛等諸國を離
し我内地の商業上に非常の影響を及ぼすに至ら
んかといへり

○**日韓通商事項調査** 今度農商務省に於て日韓
兩國間通商上参考に供せんが爲め朝鮮國に於ける
各港貿易内地行商金融其他何等に拘らず兩國
間の通商上有益と認めたる事項の現況將來及び
其方法等詳細取調方を日韓貿易協會に依託し其
報關として金五百圓を給與せしに依り同協會にて
之を引受及文書詳譯に於て且正確なる調査を
遂げ報告せんとし已に其準備に着手したりとなり
○**買屋の閉歇** 昨今の今頃は買屋の景氣中々氣
昌なりしに引換へ本年の昨今は出賣、入賣とも至
て少く帳簿の番頭何れも不仲し居ると云ふ此に
付て或る黒人の話に據れば他國はイヤ知らず東京
にては買屋の繁忙は世間好景氣の極にして其の閑
散なるは世間不景氣の極なりと其理如何と云ふに
江戸の兒の氣性は善、云々宵越の餘は遣はれと云
ふ寸法にて囊中賑われば忍び遣はれ果す習俗なれば
世間は好景氣の折には職工労働者などは錢の儲け
湯より急ぎ衣類などを採へ又は買物を出すなど
俄當限を極むれども餘りし金は借金其他に浪費し
て手許に金が散れば先に受出せし買物には二
度の取りを命ずる有様に金が出来れば又受出
し又入るゝなど從つて買屋繁昌すれば世間不景
氣の際には金廻りの悪さより花客の出資するもの
少なきは知れぬ衣類を新調して買物をするなどの
事なきより自然入賣も少き道理にて買屋に至て閑
散となる常なりと云ふも畢竟買屋の花客とも云
ふべきは多く労働者などの下等社會に多きが爲り
なるべし

○**買屋の閉歇** 昨今の今頃は買屋の景氣中々氣
昌なりしに引換へ本年の昨今は出賣、入賣とも至
て少く帳簿の番頭何れも不仲し居ると云ふ此に
付て或る黒人の話に據れば他國はイヤ知らず東京
にては買屋の繁忙は世間好景氣の極にして其の閑
散なるは世間不景氣の極なりと其理如何と云ふに
江戸の兒の氣性は善、云々宵越の餘は遣はれと云
ふ寸法にて囊中賑われば忍び遣はれ果す習俗なれば
世間は好景氣の折には職工労働者などは錢の儲け
湯より急ぎ衣類などを採へ又は買物を出すなど
俄當限を極むれども餘りし金は借金其他に浪費し
て手許に金が散れば先に受出せし買物には二
度の取りを命ずる有様に金が出来れば又受出
し又入るゝなど從つて買屋繁昌すれば世間不景
氣の際には金廻りの悪さより花客の出資するもの
少なきは知れぬ衣類を新調して買物をするなどの
事なきより自然入賣も少き道理にて買屋に至て閑
散となる常なりと云ふも畢竟買屋の花客とも云
ふべきは多く労働者などの下等社會に多きが爲り
なるべし

○**買屋の閉歇** 昨今の今頃は買屋の景氣中々氣
昌なりしに引換へ本年の昨今は出賣、入賣とも至
て少く帳簿の番頭何れも不仲し居ると云ふ此に
付て或る黒人の話に據れば他國はイヤ知らず東京
にては買屋の繁忙は世間好景氣の極にして其の閑
散なるは世間不景氣の極なりと其理如何と云ふに
江戸の兒の氣性は善、云々宵越の餘は遣はれと云
ふ寸法にて囊中賑われば忍び遣はれ果す習俗なれば
世間は好景氣の折には職工労働者などは錢の儲け
湯より急ぎ衣類などを採へ又は買物を出すなど
俄當限を極むれども餘りし金は借金其他に浪費し
て手許に金が散れば先に受出せし買物には二
度の取りを命ずる有様に金が出来れば又受出
し又入るゝなど從つて買屋繁昌すれば世間不景
氣の際には金廻りの悪さより花客の出資するもの
少なきは知れぬ衣類を新調して買物をするなどの
事なきより自然入賣も少き道理にて買屋に至て閑
散となる常なりと云ふも畢竟買屋の花客とも云
ふべきは多く労働者などの下等社會に多きが爲り
なるべし

○**買屋の閉歇** 昨今の今頃は買屋の景氣中々氣
昌なりしに引換へ本年の昨今は出賣、入賣とも至
て少く帳簿の番頭何れも不仲し居ると云ふ此に
付て或る黒人の話に據れば他國はイヤ知らず東京
にては買屋の繁忙は世間好景氣の極にして其の閑
散なるは世間不景氣の極なりと其理如何と云ふに
江戸の兒の氣性は善、云々宵越の餘は遣はれと云
ふ寸法にて囊中賑われば忍び遣はれ果す習俗なれば
世間は好景氣の折には職工労働者などは錢の儲け
湯より急ぎ衣類などを採へ又は買物を出すなど
俄當限を極むれども餘りし金は借金其他に浪費し
て手許に金が散れば先に受出せし買物には二
度の取りを命ずる有様に金が出来れば又受出
し又入るゝなど從つて買屋繁昌すれば世間不景
氣の際には金廻りの悪さより花客の出資するもの
少なきは知れぬ衣類を新調して買物をするなどの
事なきより自然入賣も少き道理にて買屋に至て閑
散となる常なりと云ふも畢竟買屋の花客とも云
ふべきは多く労働者などの下等社會に多きが爲り
なるべし

本組合録事

▲新規加入者 左の諸氏は今回本組合へ加盟の旨届出ありたり

浅草區旗籠町一丁目五番地 星野外三郎君

同區福井町一丁目二十番地 岡田七郎治君

日本橋區馬喰町四丁目三番地 増田九十郎君

▲吊詞贈呈 本組合員日本橋區馬喰町四丁目東京莊園堂齋藤泰助君は此程逝去せられしに付例に據り組合員を代表して頭取より吊詞を贈れり

禁轉載

▲推来類 黒唐木蓋物、上中下等にて動物二箇、欄、并、兩天、天神等

▲時鐘物類 本甲、黒唐紙、並物、木蓋物、組物、二箇、兩天、天神物、上中下

▲一類物 自由上中下等にて相變らす

▲右いづれも賣口よし

▲かんざし類 本甲、黒唐、角物、木蓋等にて推来、並物、時鐘物、玉入、かさ付、向ふ差、花物、天神等

▲物、細物、など向ふよし

▲碧玉 あり、推来、時鐘物類大に流行

▲牛欄 九寶利休、真砂、お初、半京、相利休、等に

て班入、無地物上中下等相變らすの賣行なり

▲木欄の類 上等物本時鐘付、研出し、真砂、福寶

牡丹、雲形、月形、星形の類賣口よし

▲同並物 追、高直なれども相變らす賣口よし

三八、福寶、真砂、お初、月形上中下、いづれも繪

付、又、無地物なり

▲欄 四寸三八三五の福丸、小利休、五寸、と

かし上中下等

▲時代 右同欄、黄欄、同欄、お初並物大に向

ふし、欄及び黄欄、お初並物の賣行

▲賣揚立 二五二三二寸、一八及び變あび、丸

形、品川相變らすの賣行あり

▲南京賣揚 右同欄

▲海成付 上中下等も賣口よし

▲揚枝 角、くじら、水牛、何れも上中下等も賣口

よし

▲竹欄枝 上中物賣行あり

▲帶留金物 上中下賣行あり

▲襟巻り 季節物ゆゑ上等中物下物いづれも大形

中形、水形、胡蝶製の物繪付七寶、あるみ、爛

の類非常の賣行

▲根かけの類 本ゴム玉粉ひ張玉あるみ、硝子

玉、モール細物等向ふよし

▲一文字 あるみ巾裏、石入、高彫、透し、三ッ折

四ッ折、五ッ折、石目、鏡入、其他ゴム無地、繪付

の類向ふよし

▲モール根掛 各種、針織のモール粉ひ結物、房付

相變らす賣口よし

▲掛物の類 内記房付上中下

▲縮緬くけ組 無地及び友成上中下

▲縮物 無地上中下、房付屋なし

▲金網 太中、細、金網、たき、ばらの類

▲糸扱及び捻物 上中下相變らす

▲花物結び掛 季節物大に向ふよし

▲手拭の類 さまざまな紋、鹿の子、縹取、糸あみ

織物新形、雲井織、雲霧、毛糸金入、金なし、モス

金入、安田の類、縹にしき、ノリンスなまこ、黒紗

絞りの類いづれも向ふよし

▲ゴム花かん 上中下、房付物にて總て一月物賣

口よし

▲花かん 梅、水鏡、羽子板、袴、其他新形物數

種、及び紫玉簪などを大に賣行あり

▲新珊瑚美術玉 同品は東の東、本舖田中東

洗室に於て製造販賣し其日酒造も非常の高評を

博せつ、ありし處、同店も既に東のかと云へる大立

物ありて其製造に手廻り受ねる處から既美術玉の

今度日本橋區旗籠町二丁目十二番地專賣中綿製造

本舖辰巳屋可藏氏へ譲り渡しの約整ひなれば同氏

は尙之に改良を加へ善造し美造して更に發賣した

り云ふ

▲高野石松 環て神田橋原川岸なる小林富治郎

氏の製造販賣に係る同品は恰かも其名の如く無比

の高評を得て販賣の益々増加するより斯くて其

芳香品質の身に慣るゝを誤認して品位の粗に陥り

りし如く思ふなどの需用者あるや計り難しとて

今度更に優等の磨香を加へ所謂特別の煉製と爲し

たれば錦上又花を添ふる思ひあり

▲梅が香油と同煉油 日本橋區小傳馬町二丁目

田村商店にて製造發賣の同品に就き此程若佐病院

へ依頼して是が試験を行ひしに其成績は即ち左の

如くなりしと

一梅が香油 同煉油

右之を檢するに品質善良にして常に用ふるに術

生上最も良好の品と認め候也

明治廿九年十月十四日

告成堂若佐病院藥劑局

藥劑師 三浦不二尾

田村庄太郎殿

▲透明かしろいヘルメント 横山町二丁目の花

王堂より發賣の同品の夏化粧の品との思ひ居る

人もあれし是れ化學上より發明のたしろいなれば

冬期に於て之を用ふるも素より差支へなきのみな

らず、ひい、あかき、しもやけ等にも著るしき

功能ありと云ふ

▲美人ぬか 神田山本町廿二番地美人堂にて製

造の美人ぬか云へるは祖先以來同家に傳はる秘

法なれども該品の果して功力あるや否やを知るに

由なかりしが此程アト書生掛壁山口定雄に依頼し

て是が試験を爲さしめたるに同様に數日間試用し

て其功能の凡ならざるを實験の末、が市村處に

於て興行の際自ら日々の來觀者へ數萬圓を分布せ

しより非常の喝采を博せし由なるが今度愈々これ

を賣品となし日本橋區小傳馬町二丁目田村庄太郎

氏方より發賣する云ふ

▲齋藤泰助氏遺 煉かしろい花を以て有名

なる馬喰町四丁目東京莊園堂主齋藤泰助氏は性

淡泊能く世故に通じ而も業務に熱心にして前途猶

は多望の人なりしに天此人に壽を假さず去月廿九

日病ひを得て遂に逝く嗚呼悲愴しい哉

謝辭

左に列記する諸氏、就れも當時の實業界中に於て其名聲最も錚々たるの人となるの其熱誠の溢るゝ所又我商報の同業者を益する妙なからざるを賞揚せられ加ふるに印刷費補助として各金若干の寄贈を賜へり弊組合及商報の面目之に過す依て略儀ながら茲に貴名を列載して聊か其厚意を深謝す

(記名順序不同御海恵)

- 岐阜市桃屋町 河村 商店君
- 府下向島須崎町長瀬工場 村田 龜太郎君
- 北海道根室市梅ヶ枝町 市川 源三郎君
- 信州松本大名町 田立屋 勝造君
- 陸前石の巻 金森 太平君
- 越中富山中の町 故田 繁太郎君
- 遠州濱松町 尾崎 商店君
- 横濱弁天通四丁目 下島 佐助君
- 信州長野町 宮島 安兵衛君
- 上州桐生町 藤江 清三郎君
- 同原市町 半田 甚四郎君
- 陸前岩沼 岡部 吉三郎君
- 信州長野町 福田屋 商店君

▲この逸種 この此程の暑なりとか横山町一丁目... 目録並に本舖佐野道彦氏の店へ一人の客あり... 一つとコンパンの帽子とを預け置きしを小僧が...

▲平尾氏の修車場 廣告 小町水田イオン... 齒本舖平尾君平氏ノ業務擴張の爲り裏に奥羽地... 方までの各停車場へ鐵板廣告を掲示せし後續いて...

▲注意 際て本紙上にも記載せし彼の京橋... 區町十九番地へ新設の日本憲法協會は於て此程... 同會誌第一期(菊桐の巻)を發刊せしが流石に憲法...

▲古代理物 際て本紙上にも記載せし彼の京橋... 區町十九番地へ新設の日本憲法協會は於て此程... 同會誌第一期(菊桐の巻)を發刊せしが流石に憲法...

▲古代理物 際て本紙上にも記載せし彼の京橋... 區町十九番地へ新設の日本憲法協會は於て此程... 同會誌第一期(菊桐の巻)を發刊せしが流石に憲法...

▲寄附者之代名 杉田藤太郎(イオン旭) 出府者之代名 計三十三名にして諸君が御寄附の時... 運送(上)上を周旋する程は其に一段の興を添...

貴嬢紳士必の香料 〇〇大瓶價六拾五錢 〇〇小瓶價三拾五錢... 用ゆる七夕五分入及び廿五分入あり

人造麝香 〇〇大瓶價六拾五錢 〇〇小瓶價三拾五錢... 用ゆる七夕五分入及び廿五分入あり

星野興兵衛 電話本局九百三十九番 〇〇大瓶價六拾五錢 〇〇小瓶價三拾五錢...

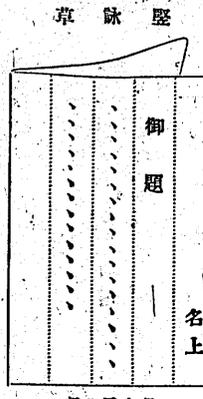
衛生佳品 假名垣猫 〇〇大瓶價六拾五錢 〇〇小瓶價三拾五錢... 用ゆる七夕五分入及び廿五分入あり

阿部彦四郎 東京淺草橋本舖 〇〇大瓶價六拾五錢 〇〇小瓶價三拾五錢... 用ゆる七夕五分入及び廿五分入あり

都府の代理店 東京淺草橋本舖 〇〇大瓶價六拾五錢 〇〇小瓶價三拾五錢... 用ゆる七夕五分入及び廿五分入あり

▲新年歌舞會の御題 来る明治三十年一月十八日を以て宮中に執行せらるる歌舞會の御題は「松影映水」なる旨例せ出され御進呈式並びに期限等は左の通り定めらる。

料紙は楮紙を厚紙を用ふべし
但し遠地郵送の分は美濃紙を用ふるも苦しからず且御進呈期限は一月十日迄



草紙堅
御題
名上
裏面書式
新ッ五し但

▲改正條約の消息 日葡條約の交換終了の報告
▲改正條約の消息 日葡條約の交換終了の報告
▲改正條約の消息 日葡條約の交換終了の報告

▲五二會共 同販賣所 京五二會本部長内其
▲五二會共 同販賣所 京五二會本部長内其

▲停車場の混雑と旅客手荷物 我國の鐵道に就
▲停車場の混雑と旅客手荷物 我國の鐵道に就

▲女子又ば老人等に至りては其困難尙更思ひ遣る可
▲女子又ば老人等に至りては其困難尙更思ひ遣る可

▲大停車場にはレンドマンと稱して赤い帽子を冠
▲大停車場にはレンドマンと稱して赤い帽子を冠

製造大器金一十五圓

製造大器金一十五圓

特約大販賣 天野源七

特約大販賣 天野源七

石除

各種 洗滌 洗滌 洗滌

製造及販賣

目錄進呈

堂香榭

元祖 ねりり寸さん

近來同名之類似品種々有内最も品質善き最奇効ある最古く發賣せるは獨り弊店のねりり寸さん

東京小間物卸商組合

都の花

天下無比衛生的顏料優等化粧品
「芳香馥郁白美麗麗頗有效靈妙奇劑」



煉白粉價 金六十二錢
金三十二錢
金五十二錢
水自粉價 金廿十錢

製造發賣 東京市日本橋區馬道町 四丁目一番地 東京莊園堂 齋藤泰助

登 録 商 標

鄂堂ハ石鹼香水等各種化粧品ノ製造及ヒ大小發賣ニ兼テ内外有効ノ賣藥ト芳香藥ノ一大販賣商店アリ

本舖 問屋 三寶堂白山商店

東京市日本橋區馬道町三丁目一番地

江川商塵賣品廣告

- 龍甲珊瑚珠時繪物推朱彫各種
- 舶來最上黑茶本ゴム櫛各種
- 舶來最上人造ゴム無地龍甲ばらふ各種
- 舶來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

券店發賣之ゴム諸種ハ曾テ米國并ニ英國ノ確實ナル會社ト特約直輸入致シ居候間物品ハ精々相標價價ヲ以テ販賣仕指一層御愛顧之趣奉願上候



發賣全上總屋江川金右衛門
本舖 同町十四番地 (電話千二百十九番)
小問物問屋 同 支店

花王 白粉

定價 小瓶四錢 新大瓶拾三錢
中瓶六錢 極大瓶二拾錢
大瓶八錢 別大瓶卅五錢

製造發賣本舖 脇田盛眞堂
東京市日本橋區橫山町二丁目
◎販賣所ハ全國至ル所ノ賣藥店小問物店ニ有リ

新製宝來やうとて花王

衛生上有益の佳品あり

製造發賣元 大和屋小兵衛

東通志保町

美人社會高評博し化粧品大王

西洋各國にて大流行の實に奇妙なる「無毒せる御化粧」別緻なる「一名透明水白粉」

原品直輸入

獨りスミダグ會社

定價 大瓶二十錢 中瓶十四錢 小瓶七錢
別製 五十錢 三十錢

◎此別製は「見るに白くする事雪の如く玉の如く」水溜りかみを用ひしめて其場せすに用ふるも決してむらにならず◎あせろ○みで物は立所にさがるがゆゑこれを用ひ玉比一人一倍の光彩を放つ

化粧品小問物總發行所
東京市日本橋區橫山町三丁目一番地
◎三橋兎喜次郎製

白粉 化粧水

關西代理 賣藥卸賣株式會社

大坂東區南區三丁目
京都東區東區三丁目

特約代理店 全山町 天野源七
大坂東區南區三丁目

鴉の嘴

第十八回 一 鴉子 稿

絶えて久しき物語りに父子の時の移るを知らず遂に花と共に語り明し雨もやみし時れば老僧はやをら起り朝飯の支度と朝のへ食事終りて世の親の心へ暗にあらねども子を思ふ故に迷ふと赤葉御門の歌に見えたるを誠にして故の暗に世を捨てた乃公でも思ひ迷はぬ口ではなない能く顔を見せ呉れた是で死でも遺憾ないといふ多度探して歸し涙に暮るのみ思ひの阿兵衛も二十餘年の星霜をいつかの實父に邂逅して母の事をも聞えばやと切りに望み居りたれば其本懐は云はん方なく暫時なりとも事へんものをと勝手元以下り立ちて手鍋探さるも面白し老僧は見て打微笑考マア夫れに働かずとも能い我子ながら二十餘年よりの珍客なれば疎そかに致して清まん先づ此處へ来て面白し時でも聞かして呉れ時前に花其方の時し其方い高山山丘方にて生長り誰やらの養子になつたとか聞たが何と云ふ人であつたかな兵衛は主君駿河守との御道の修指南柳川兵衛夫とすすす聞くより老僧の何やら云はんとせしが左わらぬ休考シテ其兵衛夫殿今にお壯健で居坐るかの、此暗に兵衛は鼻打かみ左れば養父が壯健で居ります事なら私しも主君の御暇を賜つて斯様に遠征致さても能い事なれを何と隠しませう養父兵衛夫の四五年前家の跡目を私に譲り老後の身体を保つ爲り養州有馬一罷越し温泉に湯治を致して居りますと播州明石の武士とやら養州軍源深崎仙右衛門とす兩人の者ど刀の鑑定から恨みを構へ遂に兩人の爲に暗殺せられたと打交れて物暗れば老僧も夫れいとのみ思ひさかぬて悄然たり兵衛はなほ言葉と並ぎ兵衛に耳ある世の變へ滅多に口外に致されせんが實に夫故私し永の暇を乞ひ受けし時刀下の鬼となつ

たる養父の無念を暗せんと爲り此年月の旅に暮し右兩人の所在を探して居ります未だに手掛も御坐りませんと涙を呑んで物暗る老僧の能と落附頭考イヤ斯様な事ハ左様急ては却つて往んも氣を永くして待つうちに必らず知るに相違ない然しなから追が故兵衛夫殿の御無念に叶ひし丈あつて天晴の心掛け乃公も養父が喜ばしとい壁にも云ふ産の親より育ての親養育の恩の産んで呉れた恩より百層倍も優つて居るから必らず疎そ



かに致してならんよしんば此處に産の親があつて其親が養父の仇敵である事ならば美ん事其産の親を打死たし養父の親が草葉のかけの御無念をお晴し下さる相成らん産の親ですら其通り況して其養父の某演説其兩人の如きは見付け次第に其刀を以て眞此通りと云ひながら傍へに有りし兵衛の刀を取り箱を拂て見えたが逆手に持つて我と吾が罵詈雑言と突立つれば血泣ハサツと進み産に染むる時紅秋の雨を地に敷き紅染と色と争へり兵衛アサと打交るる父上狂氣し給ひ

しかハ何事と狼狽すれば老僧の條かに押止り淋瀝りかゝる血泣を揮へて苦しさ思をキツとつさイヤ騒ぐには及ばぬ氣を狂はねば心も亂れず親の仇に俱に天を戴かず君の仇に俱に地を踏まずさへ開くに席を同じふして膝を交ふるは事あり夫故にこそ斯くの始末日頃無念と附頭考養父の仇敵深崎仙右衛門を打取て其方い嘆かし本望であらうと云はれて兵衛ハ仰天し然らば父上が何故に又演説とは考ラ其不審サソソソ何

を駈さう乃公こそ養州有馬の温泉にて其方が養父の兵衛夫殿を殺害致した仙右衛門其証には那なる位牌と養へる手も指さすに兵衛の不審暗れねども指さす儘に佛堂の戸眼を開けて取出せし一基の位牌を見れば養父の阿の一字を書き下にお歌と兵衛夫の名を記し裏に仙右衛門の名を記して廻りの書き讀むるは其名に疑がひなき可くもなければ兵衛は唯直あされに呆れて宛然夢に見る心地考其名にて不審ハ暗れたであらう初名源之丞一曰京より姫路へ歸り間もなく演説の家

に養子となり即ち其名の仙右衛門と家中の養父と通立つて有馬の養父の養父の兵衛夫殿に庇護を重ねて此方い云々鑑定の大義は斯其時の扱様は是々とその軍蔵に難かられ人違ひにて兵衛夫に切掛けし類末を落もなく物暗り其後兵衛夫へ言譯の爲め軍蔵の所在を探したる次第をも述べ未だに所在の知れざるがゆに斯は其身を働かし月を珠數に持換し由を語り養父の仇の片破れなれば介錯せよと首さし延るに兵衛事首意外な思ひをなし兵衛はつて始めて知る人違ひの事なれば決して仇とは思ひ難し唯惜むべきは養州軍蔵一人父上に谷のなきものを早まつた事をなされましたと昨夜の音こび引代へて今朝は涙の露平庭の葉末に垂けなるも共に泣くかと思はれて頼にも立も得ざらしを交はるとかしく思ひ今思ひ置くる事なしサア早く介錯せよと刀を引寄せればガツクリ窮る、斷末廣無と合せし親子の指の逢ふ別れと知られける

▲前田氏の辭任 前田正名氏ハ此程臨時博覽會評議員仰付られたる感實業團體を代表しての評議員なれを御受けを爲す單一個の前田正名なれば御受け出来難しと之を辭任し尙先頭農工商等合議員を辭任せしが是亦同様の趣言なりと▲博覽會紀念の大博覽會 京都博覽會の創立は實に明治四年にあり同年同地建仁寺本願寺智恵院の三方式に博覽會を開きたるが我國に於ける博覽會開設の嚆矢にして此舉大に博覽會の實業發達に裨益する所あるを感得せしめ爾來各地にも博覽會若くハ共進會開會の舉あり遂に内閣勸業博覽會の開設を見るに至りしは茲にて本邦の博覽會ハ京都博覽會協同會に其先導を爲したるものなり而して明年ハ協同會創立後二十五年に相當するを以て今回 元工業館を同協會に譲受け美術館前に移轉改築するを以て明年四月本邦博覽會創立二十五周年紀念の大博覽會を新館に於て開くとに決し夫と準備に着手したりと云ふ

臨時商業會議所聯合会決議案 營業稅法改正
 に対する同會の意見ハ左の如くに決定したるに依り此の旨を以て大藏大臣へ建議し且帝國議會へも請願するよしなり

營業稅法改正意見
 第一 營業稅法の缺點

凡そ稅法を制定するに於りて注意すべき第一要義ハ稅法の簡明にして而かも公平を失はざるにあり而かも隱微の點を以て煩雜に失するものなし手廻り多額の徵收を要するのみならず納稅者ハ爲りて非常の苦痛を感ず其結果竟に負擔の公平を缺くに至るに免るべからざるの理顯なり且明治二十九年法律第三十三號營業稅法を案するに隱微の點を以て煩雜にして加ふるに稅額の負擔亦公平を待ざるものあり請ふ當に其然る所以を開陳せん

其一 營業稅法は建物賃借價格を以て課稅標準の一に定められたりと雖も建物の大小及び其賃借價格の多寡は甚しく收利の大小多寡に反し之を例せば銀行業保險業等は極小の家庭に於て其業を営むも莫大の利益を收り得べく之に反し製造業販賣業等は建物の手直なるに似ず收むる所の利益僅少なかり然るに何等しく課稅標準として之に課するに千分の四十の稅率を以てせんとす安んず其結果の公平なるを得んや況や建物の賃借價格から至る公平に之を定むるに到底何れを以て課する標準と爲すに課稅上徒に煩雜の手數を増すに過ぎざるなり

其二 營業稅法の從業者を以て課稅標準の一に定められたりと雖も營業の種類に依りては從業者の員數一定せずして臨時増減するもの少からず是の如きものを以て課稅の標準と爲すは亦只課稅上煩雜の手數を増すに過ぎず殊に本法に於て名義の何たるを問はず商業に従事するものは總て從業者と定め商家の丁稚製菓家の徒弟の如きに至るまで悉く從業者として計算すべきものとせしむれば是の如きものとの額はさるべからず何とされれば商家の丁稚製菓家の徒弟の如き多くは將來其業に當らんことを欲して本業を見習はんが爲めに寄資するものなれば假令其名が被備者なるも其實は決して普通の被備者と同視すべきものにあらずなり而も此より從業者ハ課稅の標準たるに止り直接其額上に負擔を受くるは非ずと雖も已に課稅の標準となす以上備主の勉めて其員數を減せんとするは免るべからざる

情勢にして其餘營業の及ぶ所皆に舊來の價習を破り予盾として發達の途を失はしむるの事なり延て商業の振興を妨ぐる媒介たるが如きことを必せざるも又資本金額を以て課稅標準の一と定められたりと雖も資本金の多寡ハ必しも收利の多寡と比例せざるのみならず個人が營業に對して放たざる運轉資本の如きも到底其額を知り難しに止らず固定資本に變形したるものに至りても家屋の規模其額を一にせず器備の品類其額を同せず一々之を計算して以て資本總額の幾許なるを知ることを容易の業なりとせんや是の如きものを以て課稅の標準と爲すに是亦徒に課稅上の手數を増すに過ぎざるなり

其四 營業稅法は物品販賣業の賣上金額を卸賣小賣の二に分ちて其稅率を卸賣ハ百分の五小賣ハ百分の十五と定られたりと卸賣ハ小賣に比して之を概して薄利なるを常とす故に之を區別して稅率に等差を設けしは一見公平を得たるが如しと雖も是實法上於て公平の途を示すに過す實際に至りては二者の區別甚だ曖昧にして之を區別するに由なき者なり蓋し單純に考ふれば營業者に對し販賣するものを卸賣と云ひ消費者に販賣するものを小賣と云ふが如くなるも營業者に販賣する者其重必しも多きに非ず消費者に販賣するもの其重必ずしも少きに非らず而して店頭日々の顧客に就き其果して營業者なりや消費者なりやを吟味するが如きは到底爲し難はざる事なり然らば何に據て容易に卸賣と小賣とを區別し得んや要するに卸賣と小賣とを對する營業者なるも消費者なるものと區別を分別するに由なく又其高の多寡のものを以て區別し得べきに非ざるは之を法文に規定し得べき程の明確なる限界を踏出さざる者なり夫れ二者の區別是の如く曖昧なるに拘らず其稅率に於て一と二との大差ありとせば實際の日に至りて幾多の紛擾を醸さんんとすを得べけんや其法文上に於て公平の途を示し得べけんや以上ハ即ち營業稅法中最も著しき缺點なりと信す不幸稅法の如くにして實施せらるるならば稅官と納稅者とを以て實施せらるるならば税金ならざる延て商工業の振興を害せらるに至るべし本稅法の改正を必要とする所以なり

第二 營業稅法改正の要領

營業稅法の改正せざるべからざる所以ハ以上開陳する所の如し然らば如何に之を改正すべき乎

美人入浴の證明
 本品検査ニ其原料
 純長最佳ニシテ能ク垢ヲ
 除キ色ニ白クシテ皮膚ヲ
 潤シテ充分ナラシムル等ノ
 特効ヲ有スル未ダ他ト比
 類ナザル最モ有効トス
 美人入浴中 三浦不二尾

美人入浴の特性
 美かよくとせむ
 美かよくとせむ
 美かよくとせむ

第一色を白くし美艶はだご
 ひそわかすはたけあせばた
 ひしの類ひしもやげ
 はだのわれはた皮膚病
 一切に妙なり
 定價一個金拾貳錢
 桐箱三個入卅五錢

田村村人堂
 日本橋本町一丁目
 本町一丁目
 大塚

花王石鹼

花王石鹼は皮膚の清潔を増し且衛生上大に
 特功あるは已に需用者諸君の實證の如し委實は本品に能書を附す

花王石鹼は宮内省・陸海軍・帝國醫科大學・其他各病院
 の御用を命せられ凡に内外需用諸君の高評を博し且第四回内閣
 博覽會に於ては有効二等賞牌 全國五二會品評會に於て銀牌を受領す

追伸製類の類似品有之に付花王石鹼製造發賣本舖及長瀬富太郎名義に對し御注意の上御要求を乞
 製造發賣本舖 東京馬場二丁目
 電話番號九二二號

長瀬富太郎
 市内勿論全國到所有名の和洋小間物店及賣店に大販賣所有之候間取寄にて御取次を乞

世界一之全

海遠 陸征
 捷念 全紀
 高標 刀子下未

●本產品發賣以來日尚尙三不尙販路日月隆盛之態シハ是全ク品質善且價格低廉ナルノミ
 ナラズ御販賣者諸君ノ御引立下深ク奉謝候儀然ルニ目下原料高騰等事非常ノ高價ニモ不内一
 ナ品位ノ改良ヲ加へ以テ御引立ノ御事ニ奉謝候儀然ルニ目下原料高騰等事非常ノ高價ニモ不内一

●本品は全ク品質善且價格低廉ナルノミ
 ナラズ御販賣者諸君ノ御引立下深ク奉謝候儀然ルニ目下原料高騰等事非常ノ高價ニモ不内一

●本品は全ク品質善且價格低廉ナルノミ
 ナラズ御販賣者諸君ノ御引立下深ク奉謝候儀然ルニ目下原料高騰等事非常ノ高價ニモ不内一

東京御寄賣 東組小間物御 商組合

要するに課税方法の簡明にして而かも公平を失はざるを以て精旨を爲さるべからず

其一 個人の營業に對しては左の標準に依り相當の課税を爲す事

(一) 物品販賣業
右に賣上金額(卸賣と小賣とを問はず)を課税標準と爲す事

(二) 銀行業
右に總金額(諸積費を控除せざるもの)を課税標準と爲す事

(三) 金貨貸附業
右に貸付金額を課税標準と爲す事

(四) 印刷業 寫真業 倉庫業 製造業 運送業 運河業 棧橋業 船渠業 船舶運送業 貨物積揚業 旅館業 貸金業 料理店業 旅人宿業

右に收入金額を課税標準と爲す事(本號に列記する營業に其課税標準同一なるも其税率に至りては彼此適宜に差異を附するを要す以下各條亦同也)

(五) 土木請負業 勞力請負業
右に受負金額を課税標準と爲す事

(六) 公なる周旋業 代辦業 仲立業 仲買業
右に報償金額を課税標準と爲す事
前記の如く營業稅法を改正するに於ては既に課税上煩雜の手數と無益の経費とを省き得べきものならず課税標準煩雜ならざるが故に其稅額の奇重ならざる限りは營業者をして非常の苦痛と煩勞とを感せしむるが如き思ひあらずを得べし

其二 會社組織を以てする營業の利益金を課税標準と爲す事
本来營業稅を公平に課税せんと欲せば課税の標準を營業所得即ち利益に求むるより著きはなし只營業利益なるもの容易に之を知るに由なくして之を知らんと欲すれば幾多煩雜なる手數を要すべしに依り已むを得ず他に課税標準を求むるの外ならざる然るに會社組織の營業に在りては株式會社の勿論他合資、合名會社と雖も一個人に比すれば其所得を知るに難るる容易なるものあり何れに於ては幾多煩雜なる手數をして結局不公平の課税を爲すに至るの要わらんや是會社組織を以てする營業に對しては課税方法を異にせんとする所以なり

其三 税額に相當の輕減を爲す事

改正意見の税額に就ての細目に涉りて業を具せずと雖も其程度の全體に於て現法に比して之を輕減するに至るべきは勿論に如く現法は一年七百五十萬圓を徵收し得べき目的を以て定められたり、府縣從來の地方稅中より國庫に移るべき營業稅の概算二百九萬圓なりと云ふに一種之を増して七百五十萬圓と爲さんとする其増加の急激にして負擔の過重なりを知らざるべしなり國家前途の經營に要する費用國民の本分固より之を負担せざるべからずと雖も其負擔する所の國民全般に渡して負担を失ふが如きことなきを要す戦後多費を要するの故を以て特り工商業者をして是の如き非常の増徴を負担せしめんとするが如き決して權衡を待たりと謂ふ可らざるなり況んや急激の變動は經濟上最も忌むべき所に於て稅源を凋減せしめざるは課税上の要義なるを我工商業者が徒に自己の納稅額の輕減せられたることを望むるに非ざるも國民の本分として負擔する所著しき懸隔ならしむること國家經濟を整理する所以の本道なりと信ず故に營業稅法を前記の如く改正するに當りては稅額に相當の輕減を爲し工商業者をして負擔の偏重を感せしむることなきを希望するものなり

以上即ち營業稅法改正を希望するに就ての大體の意見なり大體已に報に稱目從て張るを常とす故に稅法に規定せらるべき事項等に至ては敢て茲に列述せず

岩瀨の地代

今村大郎 速記

尾州愛知の郡名古屋の城主尾張大御官の御家來にて、一刀流の指南番に櫻井金吾といふ人がござりました。然る所近頃又櫻井に相成つた三枝勘解由といふ人がありまして、是は眞影流の指南番を勤め、双方とも御道は互角の腕前でございます。併し兩雄並立すの比、隨り勝負もすれば家中

の若侍が三枝の門弟を誘ふ、又三枝の門弟の方でも櫻井の事を誑かすいふ、けれども新聞士は流石に大海の指南番の左様な事はござりませせんが、門弟同士の言葉争ひから遠くは流方の地位に及ぶ事もありました、時に文化の元年六月廿一日櫻井金吾用事がありまして、櫻井下まで、ました所俄かの夕立、實に馬の脊を分るとどかすぞ如くで少しくその操縦がござりましたから、雨具の用意いたした所、新く烈しく降ると思ひませんでした所が、突然車輪を流す如き殊に雷鳴もいたした所、其後、櫻井が如くはらに辻堂をござりましたゆゑ、其辻堂を指して異一文字に櫻井は進んで、其の古い句に「夕立や法華に阿彌陀堂」といふのござります、櫻井は何も辨はず駆け込む途端に傘の柄がホカリ當りましたが、向ふ降でござりましたから傘を傾けて來ましたゆゑ、人か進入居たのを知らずに飛び込みました、是れは失禮、といひながら傘をつづけて見ると、其處に雨宿りをして居りましたの、三枝勘解由でございます、互いに門弟同士の争ひより、耳に進入して居る事もありました、二枚の三枝が、勘アイ、櫻井氏が、公ハ、日頃より三枝勘解由の眞影流は役に立んなと、仰しやるの事、日頃公が仰しやればこそ、櫻井が手前の流名を誑かすのでござる、さばかり、修名書の公が向ふに人の立たるのが修氣に附す駆け込で來て傘を當るといふ、其の意を得んことござる、名だといふ人が向ふに人が居るか居ないかを知らずに駆け込で來たといふは、眞相千萬ござる、さういふ櫻井も、烏い、三枝氏、公ハ、左様いしやるが、手前ハ此の吹降りを傘を傾けて、尊公ハ立て辻堂の中に、雨を、洗いで居なされるのだから、向ふから人が来るか來ないか、分りさうなものを傘を打附れるまで、其處に立て居るといふ、甚だしい、是が傘の輪が、たから宜いやうなもの、眞影流なれば其許の腕を突通すのでござらう、と一言一言互ひの争ひを、然らば此處に

於て眞影の勝負を致さう、烏い、いふにや、及ぶと櫻井三枝互ひに辻堂の前へ、をり出で、刀を抜き切り合ひました、何をいふにも双方ともに、指南番でも、雨の降つた人の入る舞臺を、さす、さす、切り合ひました、然る、眞影、が、し、と、つ、つ、つ、石の、置、な、て、あ、る、上、櫻井金吾が、倒つて、足、を、踏、つ、つ、ゴ、ロ、と、石、が、倒、れ、つ、つ、倒、れ、る、處、を、得、た、り、ウ、イ、と、三、枝、が、肩、先、から、切、り、下、し、た、れ、ば、此、方、も、剛、の、者、倒、れ、な、ら、な、ら、三、枝、の、脇、腹、を、ツ、ツ、差、す、三、枝、勘、解、由、ハ、ッ、ッ、ッ、と、よ、め、さ、な、ら、一、太、刀、切、り、下、し、た、の、が、櫻、井、の、肩、口、から、十、分、に、浴、せ、た、から、櫻、井、ハ、其、場、へ、打、伏、せ、な、つ、つ、相、果、ま、し、た、三、枝、ハ、脇、腹、を、突、か、れ、た、事、も、多、症、口、を、押、へ、て、我、家、へ、歸、り、歸、つ、た、ぞ、ウ、ウ、ウ、の、重、大、郎、が、父、上、の、修、持、り、コ、レ、海、渡、り、門、を、開、き、櫻、井、ま、り、ま、した、家、來、源、藏、が、立、出、て、門、を、開、く、途、端、に、ウ、ウ、とい、つ、つ、倒、れ、ま、し、た、切、物、が、最、上、だ、か、ら、充、分、に、脇、腹、を、突、か、れ、ま、し、た、が、夫、を、ノ、ッ、と、押、へ、て、虫、の、這、ふ、や、う、に、して、家、の、前、ま、で、來、ま、し、た、れ、と、ウ、ウ、と、倒、れ、る、途、端、に、手、が、は、な、れ、た、から、五、腕、六、腕、が、吹、き、出、し、て、ア、ッ、と、い、つ、つ、終、り、ま、し、た、神、重、大、郎、驚、いて、駈、出、で、見、ると、父、が、脇、腹、を、突、か、れ、て、倒、れ、て、居、り、ま、す、から、櫻、井、介、抱、を、い、た、し、た、が、居、ま、せ、ん、と、虫、の、や、う、な、る、處、の、中、に、些、か、に、一、言、二、言、喧、嘩、と、辻、の、一、件、と、いつ、た、ま、烏、を、引、取、り、ま、し、た、夫、より、直、に、彼、の、辻、堂、の、方、へ、走、り、來、つ、つ、見、ると、櫻、井、の、肩、を、充、分、に、切、ら、れ、て、倒、れ、て、居、り、ま、す、その、事、早く、も、櫻、井、の家、へ、も、聞、え、双、方、より、事、の、始、末、を、お、届、け、に、及、ぶ、と、尾、州、の、大、主、關、召、さ、れ、て、櫻、井、の、其、場、に、於、て、相、果、し、も、三、枝、ハ、切、れ、な、ら、な、ら、我、家、へ、歸、つ、つ、倒、れ、し、眞、に、眞、士、の、喧、嘩、新、く、あ、り、たい、と、櫻、井、の、家、へ、取、置、し、三、枝、ハ、修、持、大、郎、へ、家、書、を、仰、せ、附、れ、た、若、年、な、ら、知、道、ハ、父、に、お、ら、さ、る、腕、前、行、は、知、道、指、南、番、を、す、し、附、る、と、の、事、此、方、ハ、小金、吾、母、子、尾、州、に、水、の、頭、と、な、り、つ、つ、仕、方、が、あ、り、ま、せ、ん、ら、東、海、道、藤、澤、の、邊、り、岩、瀨、に、居、る、者、が、ご、ま、し、た、ゆゑ、其、處、へ、參、つ、つ、偵、察、に、兼、命、を、蒙、り、て、居、り、ま、し、た

はき物 (前号の續)

次に小町形とて前半四部下駄を改良したるものなれども異なる所は裏の堀を幾分か精密に改めたるを裏の堀の附け可き裏の前の部なる穴を内にして外に現はざるため穴がないとて小町下駄とは唱へ来りたりと云ふ然れども穴なきために鼻緒をすけることの困難一方ならず困難と流行とは水く脚ひ立たずして目今流行する小町形は幾多の改良を加へて穴を前部に現はしたれども銅片を張り深く包み隠したることを面白けれ次ハ高年堀とて堀に一段の改良を加へ表は前部を附け鼻緒は應皮の風色を用ひ醫師又は老人の間に多く流行し明治七八年の頃まで用ひられたれども極高向の品に至りては現今に至り只其形を存せるに過ぎず然れども少婦人等を用ふる木履は之より漸次改良し来りたるものなることを忘る可からず

明治の初年より今日に至るまで流行し來るものは以上數種の改良したるもの目下流行の小町形は舊小町形の堀を改めて穴を前に附したるもの蓋に横紐と本紐と並とも云ふとあり横紐とはさきさきの横面を真直に通じたるものづら紐とはさきさきの表面を通じたるもの流行二段小町形は流行小町形の堀傍に更に段階を附したるもの裏と裏とを接して兩者相合するときは堀の横形もつこうの紋に似たるを以て「横もつこう」とも云ふ夜鳴しは一名流行改良小町形とて穴強も流行小町形の堀を改良したるもの其改良したる所の月の形に似たるを以て月形とも云ふ府下の下駄種商、稍延方にて之を始む流行道鳥形は舊道鳥形を改良したるものにて以上の數種は表附とつらば(地下に履くものにて表なしと云ふ)との兩様あれども表附さきの方宜しき方なりはねは助六下駄を改良したるものにて同一の形なれども之を天保年度の品に比すれば雲流の差あり薩摩下駄は此飛(一名兩葉とも云ふ)の齒高きものなれども飛は兩者の齒相合するときは裏と裏と親しく相接するもの薩摩下駄は接合せざるものなり之を俗に云ふ助六下駄にて飛の前裏を改めたるもの之を用ふるに足のかへりよき

た時流行し之より薩摩下駄の現れ後部を角にして一時の奇癖を示したれども重きがために其反動として之を薩摩下駄と唱へ後部に齒を附したるもの現はれ次に飛薩摩と稱するもの出づ以上の數種は何れもつらばを主とし踏歯物には表附のものありと流行割合に宜しからず流行踏丸形は小町形と踏丸形とを折衷したるもの、兩葉形にも亦表附のものあり前の飛と同様なれども少しく丸味を帯びて重に表附に用ふるの差あり木履は一名堀りて唱へて専ら妙齡の婦女子に愛用する足駄の内にて大坂は齒の高さ二寸俗に日和下駄と稱するもの、京指は齒の高さ三寸五分内外にして雨天に用ふるもの、其外各個の賣店にて銘々の名を附したる種類妙からされども以上記したる數種を目下の流行物とせ

いつの頃にもありけん淺草の奥山に「古今未曾有の大怪歌」と筆頭に記したる看板を掲げ「サア」入らッしやい、これは此度足柄山より生獲りたる大怪歌、眼が三ツで齒が二本、甲良があつても手足が見えない古來未曾有のけだもの、水の中から泳ぎ出しては「ゲア」と笑ひ「サア」評判々々代價はなから、代價はなから「サア」入らッしやい、早いかた徳く見世先の男濡面に流る、汗を拭ひも取らず踵太鼓を鳴しながら聲を枯して怒鳴り立つれと之を見ずんはある可からずと我先勝に木戸錢を拂ひ引籠の内に入りて見るに何ぞ圓らん盤の中に古下駄を浮めてよくくさせ居るのみなれば餘りの事に呆れて言葉もなき眞實腹は立つもの、喧嘩にもならざれば強腹粉れに行きながら手を拍て「これは評判々々、眞の怪歌々々」と却て氣を附くるより山なす人は押しつ返しつ割る、許かに木戸口へ押寄せ入りては出で入りては出で何れも事の意外に呆れ果て評判よく怒鳴り立つるのみにて誰じも其正體を云ひ聞らざるものなきたり滑稽半分の見世物師大に飲たせまうけ得たりとなり (未完)

儀式用鼈甲櫛筆入髪製造

最新流行御まげ入

軍艦 岳海屋

岳善廣告

改良柳はし形
御てんがた形
歌舞夜新形
一文字がた形
樂屋がた形
かづらがた形
新小町形

佐野善衛



玉親孫勉
模良精品物
擊學手羊井
劍校提煙入
道用靴草共
具破靴入葉
類行類入
形新行流
屋同賣專

北番八町益通區橋本日本市東京

吉常津木

キレ石鹼

一個拾錢
三個九筒入 廿五錢
麝香入一個 廿錢
三個九筒入

此新工夫石鹼ハキレ水の原料を以て調製したる最上石鹼なり
本舖 一キレ石鹼割引 五十打以上七十錢。五十打以上五十五錢。特別製十打以上六十錢。特別製十打以上六十錢。特別製十打以上六十錢。
發賣 長者可特約店 秀善堂 日本橋區通運町 大和屋小兵衛 山崎帝國堂
東京神田花房町 音羽菊發賣元 仙台市大町 田中屋花王堂 横濱伊勢崎町 四丁目屋商店

右の外諸事女子らしく優かたに假にも遊女役者等の風俗を見習ふべからず世には親のしつけありし十二三よりませ過ぎ男へ見れば可笑くもなき事せらるゝ笑ひ又しても親のせがみて孤手下作なる流行物を買せ指も役者の杖の入しを痛しがり芝居の替る毎に見たり内に居れば食物を食り穿三縫には縫れども縫針をさらひ親の詞にそむき假初の事にも顔をふくらししてすね廻り近所隣りて夜遊びし下女下僕を使ふに叱りいじり假初の事を親に告口し又は買がりて人の事をしり三日にわげず物見遊藝に出たりなどする娘も、多し是れ皆親のしつけのあしき故なり餘所の悪風俗へ見習ふべからず育てわろしむへせも元ハ其身の心がけあしく氣風氣儘より出る事にてかやうの娘は容貌よくとも見聞のするものにて嫁入しても男姑の氣取も得ず夫につかへる事も疎かにて終には去られ其身は勿論親兄弟の顔をも汚すものあり慎むべし (未完)

▲たわけ問答

▲水を汲たる壺を瓶といふか
▲銅の手をつると云ふがごとし
▲土藏の戸をうら白といふか
▲雪分に遺ひ捨る物をゆづり葉といふがごとし
▲せつまいを絞けて盤といふか
▲蛙の子をお玉杓子といふがごとし
▲女の胸にあるを乳(地)といふて男の胸にあるを天といはざるか
▲ゆづりけを妻(小)といふて本妻を大といはざるがごとし
▲酒の席をどりもつ者をたのこといふか
▲世を憚らぬ我儘者を大ぢら者といふがごとし
▲はみやがら指盤といふか
▲足の先まで入れがらもひさきといふがごとし
▲髪結あつて佛結なきがごとし
▲白をゆいぢを引とはいふか
▲新しき粉な通しを飾(古)といふがごとし
▲竹にもあらぬ酒をさといふか

▲少しの隙ものを松の葉といふがごとし
▲智慧の足らぬを九十九文といふか
▲要ア育ちを三百安といふがごとし
▲米を入れて搦ならから白といふか
▲一斗たらず入れて千石通しといふがごとし
▲黒染の古びたるをよかかん色といふか
▲丸ばかりの紋所をくもといふがごとし
▲匂ひもなき物を下子やといふか
▲園にいたいさもせぬに鳥帽子といふがごとし
▲不禮のいひ譯を洗免といふか
▲腹立顔と顔面作るといふがごとし
▲鳥にもあらぬ地名を白といふか
▲茶にもあらぬ鳥をばうと云ふか
▲水をくむ器を柄(火抄)といふか
▲水鏡で造りながら地(土)といふがごとし
▲人の胸より下を腹(原)といふか
▲人のうしろを海川ならねと背(瀧)といふがごとし
▲二ツ供へて神酒といふか
▲一ツとして燈明といふがごとし
▲人の自慢をを味附といふか
▲よく働く人をまめといふがごとし
▲江戸生れの氣ちがひを狂人といふか
▲大坂新町の傾城を東といふがごとし
▲水の出入する門を樋の口といふか
▲早庭におみて天水場といふがごとし
▲近道の驛路を東海道といふか
▲遠い道を京今日(大坂)といふがごとし
▲側に居ながらいぬ(居ぬ)といふか
▲けいはい者を狼ものと云ふがごとし
▲櫛の櫛物ならぬ草花をきざうしといふか
▲官女も持ねと櫛扇といふがごとし
▲水草にもあらぬ水仙といふか
▲里にあれども山吹といふがごとし
▲材木屋にあらぬ呉服屋を白木屋といふか
▲櫛ばかり賣らねども越後屋といふがごとし
▲老人のあたるものを巨(一)といふか
▲真中にいけてる炭(一)火といふがごとし

パイプ製造元
ライスペーパー各種
薄荷パイプ材
舶來パイプ問屋
東京市日本橋區
通り堀町四番地
菅谷爲吉
(但し、密店所向)

初雪の功能
近世無比
關西特約大販賣
土州高知播磨屋町
特別練製
山田篤三謹製
井上作次郎



諸品精々
金銀洋白簪
髮飾附屬品
問屋
東京日本橋區若松町四番地
萬屋村上伊太郎
廉價販賣
撰良品物

優等
麝香
石高
高嶺
特別練製
發賣元
東京市神田區柳
風川岸十八番地
小林富治郎
此石麝香は世間在來の物と大に其質を異にし純好なる原料に純性麝香を混和せるを以て芳香佳烈一たび用ゆれば皮膚滑らかに色澤を加へ一種得なれぬ句を包含み爽快なる云ふ事ありし其名に背かざるを以てなりと益々珍愛願ひ試用之程伏而奉希望候



狂歌

たぐすみて袖打はらふ人もあり
駒止橋の雪の夕暮
我物と思へば更にかかる橋

ものさしに振りてみれば降雪の
丈もたつぷりある吳服橋
欄干のかしらも白老の服に

白鷺の鳥橋を渡るにも
かくる目録の橋の上の雪
常盤てよ橋の袂に乳のみ子を

三味線の天神橋に歌謡の
おきは巴よりよしるるなり
兩國五分づつ、る橋の上

年をへて變る姿の親爺はし
かしらに白くつるもはつ雪
たはむかど氣運よまては散れど

豊年の印と人もなむらん
萬世の橋につづる大雪
降雪にはさかたつ姿見のはし

狂詩
飲仙會冬期大會課題七律
詠雪 履履 骨皮道人

一面敷露物音、休哉早替與無涯、塞鴉化實頗
奇妙。枯木若花亦絕佳、欲作蓬蓬幾幾子、

遊 遊
遊鏡掃眉終日麗、更無手拭氣根疲、持歸土產菓
何物、腰鹿有綠紅荔枝。

小本家には此花は見す多敷丹
間を先此とせし番の爲
商の神を備へて夷子騰
業ながら此幸抱や廻つかみ

同第四十號の解
(年未だ付二回相体す)
○オ、痴(大分) ○絆(肥後、伊賀、伊豆)

來三十年一月五日發行の商報第四十
五號は通常の頁數を二倍し餘興種を
も成べく澤山掲載の見込に付、漢詩、
狂詩、正文、狂歌、俳句、狂

東京小問物商報
東京小問物商報
東京小問物商報

尾上菊五郎製

第一無鉛毒
おしろいなれば
おしろい焼に
係る事お殊

定價
共口摺合瓶小十錢 大廿錢
特別製用五錢五十錢 樽面
水たしろ 五十錢 壹圓

一手販賣
山崎帝國堂
東京神田花房町角
電話番號本局四〇三番



全取所國全
關東元特約卸問屋
辰巳屋重藏
東京市日本橋區本町二丁目十二番

大洗粉
美術
三遊亭 圓遊 賞
吉長田石

本舖 日本橋區小傳馬
 町式丁目四番地 田村庄太郎
特約東京小問物卸商組合
 販賣所 全國小問物卸商店ニアリ



廣告 勉強
 此梅が香ハ原
 質純良ニシテ
 カナリ高ク清
 カナリ高ク清
 カナリ高ク清

製造本舖 東京神田區久右衛門町一番地
比留問民蔵
天野源七
大取賣 近江屋 中野源七
特約大取賣 近江屋 中野源七
謹告 各位益御盛商奉候時御愛顧に依り候事不
 謹告 各位益御盛商奉候時御愛顧に依り候事不
 謹告 各位益御盛商奉候時御愛顧に依り候事不



祖元磨齒生衛
 品用御軍陸
寶丹散
 東京西區西船場
 大南入
 小南入
 大南入
 小南入

ちちまのあいらぬ

此みよ野の「ちちまのあいらぬ」は世界無毒性白粉の元祖にて専ら責任帯着實製造為者候御安心の上御注文を乞ふ
販賣店 東京小問物卸商組合各店
特約西特約店 大坂南久寶寺町二丁目 寺澤三久堂
特約販賣元 東京淺草區新藤田町 寺澤三久堂

特約大取賣 日本橋區一平尾 武井龍三製
特約大取賣 同 三橋 山田丸善
特約大取賣 同 丸善 山田丸善

特約大取賣 東京橋町四丁目 大坂南久寶寺町
特約大取賣 備前岡山市西大寺町 函館末廣町
特約大取賣 同 弘前市 陸奥弘前市
特約大取賣 同 八ノ戸町 越後高田町
特約大取賣 陸中盛岡市

特約大取賣 東京橋町四丁目 大坂南久寶寺町
特約大取賣 備前岡山市西大寺町 函館末廣町
特約大取賣 同 弘前市 陸奥弘前市
特約大取賣 同 八ノ戸町 越後高田町
特約大取賣 陸中盛岡市

特約大取賣 東京橋町四丁目 大坂南久寶寺町
特約大取賣 備前岡山市西大寺町 函館末廣町
特約大取賣 同 弘前市 陸奥弘前市
特約大取賣 同 八ノ戸町 越後高田町
特約大取賣 陸中盛岡市

淺井支店 日本之親玉三升翁化粧博士先
寺澤本舖 一名藥屋にしるしの義は老翁多年
大坂南久寶寺町 精製
備前岡山市西大寺町 世に
函館末廣町 馳名
同 弘前市 無比
陸奥弘前市 之品
同 八ノ戸町 なり
越後高田町 其効
陸中盛岡市 能たる
東京橋町四丁目 其効
大坂南久寶寺町 能たる
備前岡山市西大寺町 能たる
函館末廣町 能たる
同 弘前市 能たる
陸奥弘前市 能たる
同 八ノ戸町 能たる
越後高田町 能たる
陸中盛岡市 能たる

元祖

濟録登御省務商農國藩本日大

東京馬喰町壹丁目

小町水



岳陽堂平尾贊平製

別製大瓶一箱十二本入	定價一瓶
廿五錢	
大瓶一箱十本入全	三十錢
中瓶一箱十五本入全	八錢
小瓶一箱廿四本入全	五錢

御便利の爲め正味詰替品も販賣仕候即ち二合入
 四合入八合入五合入四合入石油明箱八本入
 小町水八錢賣の瓶に凡廿七八本の詰替に相成申候



本品は世上販賣品と異なり我國にて合劑せざる物産品を以て製造し身體を害する事なく第一清潔美觀なる肌タイ
 法方引割 三十打以上五七掛 二十打以上五七掛 以上六掛

●信越線 東海道線(静岡附近迄) 兩鐵道附近同業者諸君へ謹告ス

十月以來共榮廣告社員中村時明儀弊店製造小町水「ダイヤモンド」廣告鐵板各停車場へ揭示し爲出張致サ候處各地同業者諸君ニ非常ナル御配慮ニ預リ候爲ニ意外ニ迅速ニ相濟ミ去月三十日無事歸京致シ候間此段御禮申上候併テ近日東海道線静岡迄本年申ニ又出張仕候間右同業者諸君中へ參上之節ハ何卒御配慮之程偏ニ願上候也

小町水 本舖 平尾 贊平 謹白
 東京市馬喰町二丁目 電話浪花六百五十二番

大博士



●陶器入 半ヶ月用 五錢
 ●金厲入 十ヶ月用 十錢
 ●金厲入 三ヶ月用 廿錢
 電話五千五百四十四番

世に齒磨の類多しと雖も此大博士は口の中及び歯の有効藥を以て精製せしゆ第一齒を白くし
 磨城の害なく衛生上七ツの効を奏す故に大博士の名稱を得たり常に之を修用ひ給ハ生唾口中の病を
 患る事なし江湖衛生家諸君修試用の上有益無比なることを修吹磨の程奉希望候也
 ●各地藥店小間物店に有之候御最寄にて御求を乞



○オハヨーサンはみがき發行以來日猶盛一と雖も品質非凡なるに因り特別の御愛顧を増
 一難有奉謝候御便利の爲左の特約店相設け候間續々其方へ御注文の程偏に奉冀望候以上

東京區銀座 佐々木玄兵衛 日本橋區横山町 田中花王堂
 芝區神田前 松澤八右衛門 全 本橋町 大橋博愛堂
 麹町三丁目 岩本 新兵衛 全 通三丁目 若葉屋
 本舖 東京市京橋區幸町 全 川口長春堂 敬白



嗜用人 新駒屋 中村 福助
 發賣元 日本橋小網町 赤心堂
 發賣代理店 東京横山町 田中花王堂
 特約 京橋區銀座三丁目 松澤 八右衛門
 大坂 日本橋 前百物海 山 中 商店
 賣店 天坂南區 北藤

毎月十五日廿五日三回發行 郵金壹圓五厘 一編 群衆發行 西

東京小間物新聞

第六卷



稟告

當商報の儀各位の御引立を以て日に月
に隆盛を極め茲に無事第二の新年を迎
んをす是全く各位御愛顧の厚き因り
候儀と深く奉感謝候就ては右御厚意に
酬ふが爲め來三十年一月五月初刊の第
四拾五號は通常拾六面を倍して三拾二
面を爲し之に當今有名の畫伯小林清親
翁の揮毫に係る

美麗錦繪大附録

を添て進呈仕候間不相變御愛讀の程伏
而奉懇願候

尙本号は數拾萬部を増刷して全國一般
の同業者へ配布致候儀に付隨て廣告も
大幅減の豫算に有之依て本号に限り規
定の廣告料を引下け一行金六錢の割を
以て掲載可致候間御年賀其他總ての廣
告御依頼の御方は來る二十日迄一前金
相添へ當發行所へ御申込有之度候也

東京小間物商報

發行所

雜報

(禁轉載)

▲插類の部 黄楊四寸以下三五位の福袋物相變ら
ず正向にて品不足四五五寸、類丸、有休物も少

口廣告料(五圓活字廿二字第一行三圓活字廿四
圓以上六圓迄九圓七圓以上八圓
發行所 東京小間物商報組合事務所

つづの發行

▲櫛、し 五寸利依及び三寸組物、四五五、四
五九、四二、四寸、三八、三五、三福丸物大に向
し

▲新黃楊代 四寸以下三八、三五物新丸大に向
し

▲肉色、朱色、藍色、茶色、茶色、褐色其
他各新形物三八物にて福丸附付及び女子用物
相變らず上向き供備、眞砂形、初、田之助、月
形物未送にて給付物大に賣口よし

▲竹唐櫛、地唐櫛、鏡刀衣、黒檀、紫檀、煤、自耳の
類にて二〇より五六〇位の品相變らず向よし

▲毛前立 黄楊製三五、三二、二寸、寸八、寸五等
の物にて品川形及び蛤形物相變らず同南京立
二寸以下、寸五位の品川形上向、鬚播及び元結通
しも右同様賣口よし

▲鏡の類 塗漆、紫漆、金縁等にて四枚引三枚引、
二枚引、一枚の物相變らず向よし、鏡
縁及び金縁相形半枚引は少々づの發行なり

▲天眞鏡 六寸、五寸、四寸、桑系、五寸、四寸、桐箱
一枚引六寸、五寸、四寸、三寸、つづれも賣口よ
し

▲懐中鏡 舶來厚ガラス上中下並物、給付よし
込上中下及び二枚折給付大形入等向よし

▲シヤホン入 硝子製竹製かご、眞鍮、トク、色
板其他各種新形物あり向れも賣口よし

▲はき紅 五寸、四寸、煎茶、大五川、唐草等賣口よ
し

▲附編 總入耳細綿なし中原丸形にて極大
大々、一疊、二番物大に發行あり、唐人燈五番以
下八九番位の物上向

▲丸籠形 燈心入、司、極大、大々、一番位の物上向
並編入厚形、薄形物右同様

▲かご籠 細三寸組物及び中筋一、二番、三番切

たぐの發行

▲楊枝類 角スリ上中下、鯉、水牛、舌こき付
上中下、竹楊枝、光毛、並毛、トム、ウ、蟻、盤
白生地等三行物上中下賣口よし、小楊枝、東
、類、九皮、平箱入、袋入、上中下、
其他新形各種いづれも賣口よろしく羽楊枝、房
楊枝、寒木は相變らず品切にて間に合す、象牙
小楊枝以上中物賣口よし

▲掛物類 金原紙付、一號より八九號まで●金網
、極大、大、中、細●金奴、太、中、細●糸奴
、中●白奴、極大、太、中、細●養老の金銀
平たき●養賀原、大、中内地打房新形、大、
中、小●各種新形物、縮緬、くけ、友染、無
地、房付、房なし●補友禪、無地、房付、房な
し、太、細、いづれも賣口あり●細よりの糸物
、金物、金花山、吉原より、新四段、金銀角松
、太、細の類●ちぎ掛打物及びちりめん類、上
中物、房付上向●花かけ結物、水仙、梅、柳、
物、隙鞠、輪鞠の類新形流行

▲花かんざし 季節物にて梅、椿、水仙、福壽草
、海老、輪飾、柳、隙鞠、蘭玉、羽子板、鞠鞠
の大房物、大、中、小、いづれも賣口よし

▲ゴム花かん 染菊、大、中、小、房付物及び
梅、菊、牡丹などの向ふ差類向よし

▲針打雨さし ぼん、の發行

▲手押の類 糸あみ、安田、三升緋、毛糸、金入
、金なし、モス、金入、金なし、メリス、な
まご、要路緋、籠紗、織り、織り、花紋、
鹿の子、京鹿、角など最も發行よし

▲湖川の類 縮み物上中下、木香賀、紅香賀、蠟
引等相變らず向よし

▲玉根かけ類 本玉、粉玉、其他色變物、カラ
、燦玉の類相變らず賣口よし

本組合記事

●組合員轉居 都が製造元松井丸君は從來日本樹膠米澤町に住居の處今般都合により淺草區馬道町七丁目三番地へ轉居の旨届出ありたり

▲政府委員 第十議會の政府委員は左の如く内定せられたる由なるが此外臨時に政府案の出る毎に其主任者の之を命ぜらるゝとあるべきは勿論の事なり

▲府縣聯合共進會 來る明治三十年度中に於て開設する府縣聯合共進會の如くなりと

▲佛人の直取引希望 佛國商人本邦商人と直取引を開始したるを以て我農商務大臣顯出でたる北付安藤農商務省 商工局長小横濱商業會所へ左の如く陳明ありたり

於て良好と思考す委託販賣を變ぐるに於てハ相當の保証金を荷主に差入れ商品の販賣に對して責任を帯ぶるを以て又委託販賣人は荷主より至當の手續料を申受くべし余が信用の如何は下記の銀行にて明すべし

東京に於ける 日本帝國農商務大臣閣下

▲五二會共同販賣所假定期 京都五二會本部長内實三郎專任理事中西信三郎の兩氏外六十八名が發起となりて謀て農商務省へ出願したる京都五二會共同販賣所の認可になりたる由は前号の紙上に記載せしが今その假定期を得たれば左に掲げて參考に供す

第一條 當會社は株式會社とす 第二條 當會社は五二會共同の商品販賣所を建設して出品販賣者に其場所を供給し又は其委託に應じ商品販賣の引受とすを以て目的とす

通告すべし 第七條 株金拂込の期日を怠りたる株主は其遅延日數に應じ百圓に付一日四錢宛の遅延利息及び其遅延の爲りに生じたる費用を負擔すべし

第八條 株券は一株券の一種とす 第九條 株券を買賣譲與せんとする者ハ當會社所定の書式に依り双方連署の書面に株券を編ハ氏名書換の請求を爲すべし

第十條 前條の手續を爲さざる者ハ當會社に對し其買賣讓與の効なきものとす 第十一條 株券を毀損し汚穢し紛失し或は盜難に罹り又ハ氏名を變更せんとする時は其事由を詳記して新株券の交付又は其交換を請求することを得

第十二條 株券の氏名書換に付ては一枚に付金五錢又新規株券の交付及び交換に付ては一枚に付金二十錢の手續料を其請求書と共に納付すべし 第十四條 各株主は其所持株式の數ニ株以上十株迄の一株に付一個宛十一株以上二株に付一個宛の議決權及び選舉權を有す

分ち通常總會は毎年一月七日の兩度に於て又臨時總會は臨時決議を要すべし緊急の事件ある毎に之を招集す

第十九條 總會の招集は少くも其日より通常會は十日前又臨時會は七日前に其會議の日時場所目的及び事項を明記したる通知書を各株主に發送して之を爲す但召集を要する臨時會に付ては其通知に要する日數三日迄に短縮する事を得總會の議事は通知外の事項に涉る事を得ず

第二十條 總會の議長の職務ハ取締役之を行ふ但其他の者より總會を招集したる時は其招集者之を行ふ 第二十一條 議長は決議の數に加はる事を得 第二十二條 總會ハ商法第二百三條の場合を除くの外總株金の五分の一以上にして總株主の五分の一に當る株主出席する時は決議を爲す事を得總會の決議は出席株主の有する議決權の過半数に依り之を決す

第二十三條 株主にして他株主の代理を爲したる時は其委任の權利個數を自己の權利個數に加算す 第二十四條 議長は總會を整理し其他議場の取締に必要なる處分を爲す 第二十五條 議長は總會に於て議決したる事項を議事録に登載し他取締役及び監査役と共に署名捺印して之を保存すべし 商法第二百一條の場合に於てハ其招集者たる株主中に於て臨時議定する株主總代と共に署名捺印す

謝 辭

左に列記せる諸氏ハ孰れも當時の實業界中に於て其名譽最も尊々たるの人々なるが其熱誠の溢るる所又我商報の同業者と益する抄なからざるを賞揚せられ加ふるに印刷費補助として各金若干の寄贈を賜へり此組合及商報の面目に於て是等優待を蒙り其名を列記して謝其厚意を深謝す

- (記名順序不同御海惠) 北海道岩内町 小田 權吉君 北代繁川町 鹿 正之助君 岩代繁川町 鹿 正之助君 仙台東一番町 眞田新次郎君 越後國北蒲原郡北原町 小川 傳吉君

東京商業會議所臨時總會 東京商業會議所にて去九日午前十時より役員會議を開きたり

▲品名同上 摺書にて書したる富士石輪の文字より成る横長方形欄を畫し本線の内外に以て波頭狀の線を連列せしめたる裝飾を施す

東の親玉洗粉 罐入四錢 縮緬袋入二錢 角袋入一錢

YAMAMOTO MIYAKOZAKI 製造所 山本逸造

無水麝香石鹼 特別改良 香露 水燕

衛生最良之天得之佳品 響運命袋

大販賣所 三河小田善兵衛

▲勤業銀行設立委員任命
同委員が去八日の開議に於て議長佐藤左の如く任
命ありたり。

▲日本郵政銀行設立委員被仰付
日本郵政銀行設立委員被仰付

▲東海道線市時刻變更
本月五日より當分の内
東海道線中左部の旅客列車を休止せり。

▲北北通
此東海道線一併運送未至れば旅
客の不便甚く貨物の運送に於ても支障を
生ずるに非ざらん。

▲物價騰貴と労働
近年物價騰貴の結果労働者
をして其生活に困難ならしめ而して労働力
の減少を起し去十月中數ヶ所の工場に於て
ストライキを起すを見るに至りしと云ふ。

▲郵便條例改正の調査
現行郵便條例を改正せ
るに於て東京商會所より逓信大臣に建
議したることなるが其節に於ても同様の請
を起す。

▲物價騰貴と労働
近年物價騰貴の結果労働者
をして其生活に困難ならしめ而して労働力
の減少を起し去十月中數ヶ所の工場に於て
ストライキを起すを見るに至りしと云ふ。

品名	單位	前年同月比	本年同月比
上等白米	石	100.0	105.0
中上白米	石	100.0	102.0
中白米	石	100.0	100.0
下等白米	石	100.0	98.0
上等小麦	石	100.0	108.0
中上小麦	石	100.0	105.0
中小麦	石	100.0	102.0
下等小麦	石	100.0	100.0
上等大豆	石	100.0	110.0
中上大豆	石	100.0	108.0
中大豆	石	100.0	105.0
下等大豆	石	100.0	102.0
上等棉花	担	100.0	115.0
中上棉花	担	100.0	112.0
中棉花	担	100.0	110.0
下等棉花	担	100.0	108.0

越 貴嬢紳士の香料
大瓶價六拾五圓 小瓶價三拾五圓
薄荷パイプ材 東京市日本橋區
船來パイプ問屋
菅谷爲吉

雲井織 第四期新發明專賣特許
雲井織
御婦人用 坂根兄弟商會
製造元 江州川並 外村新五郎
販賣元 京都島丸 加納作之助

昭倉商店 昭倉商店
電話末局 加百三十九番
市内は勿論全各地の支店又は小問物店にて
●買物候へば電話末局の支店又は小問物店にて

東京發賣元丸見屋善兵衛
特約大販賣 天野源七
特約大販賣 森本支店
特約東京小問物問屋各店

專賣特許人造珊瑚珠



今般驗値に於て、製造者
 多人の専賣特許を以て、
 人造珊瑚珠の研究を以て、
 九十年の歴史を有する、
 九十年の歴史を有する、
 九十年の歴史を有する、
 九十年の歴史を有する、

(注意)
 弊舖低價の専賣特許人
 製造珊瑚珠なる、云い
 丸玉、下谷、並に、神
 田、局、所、宛、郵、掛、料、一
 圓、九、角、五、分、の、切、手
 九、角、五、分、の、切、手、を、
 六、分、五、厘、の、切、手、を、
 六、分、五、厘、の、切、手、を、
 六、分、五、厘、の、切、手、を、
 六、分、五、厘、の、切、手、を、

製造本舖五
 東京市日本橋區浪花町廿七番地
 全國各地至ル所ニ取次アリ

香の
 水おひ
 入瓶金一圓
 角瓶金八錢

新小町定例
 大瓶金五圓
 小瓶金二圓

● 小御方御照合仕候
 ● 相宜次御相候

小間物化粧品各種

花玉洗粉
 自慢
 石鹸

● 大瓶十錢 中瓶七錢 小瓶六錢

野大 堂城金



金城道入

精製香水
 標商用御軍録登

● 大瓶十錢 中瓶七錢 小瓶六錢

告廣産石卵乙

おひの
 ぶん

● 本舖 乙卵石
 ● 元香敷 乙卵石
 ● 町油通 乙卵石

大塚代理店 清原勝太郎

第四回国内勸業博覽會
 有功賞牌受領

精製香油
おひの油

最良香油
八千代

野店製香油并
 煉油之廣く世
 上の好評を得
 品質の精良香
 氣の可受服に
 の影し、既、
 諸君の御信認
 を辱する所也
 益々勉強御愛
 願の厚きに開
 ひ奉んとす伏
 前費用の程奉

東京市日本橋區
 田所町十番地
井筒屋香油店

愛

● 本舗 愛
 ● 元香敷 愛
 ● 町油通 愛

榊香堂

● 本舗 榊香堂
 ● 元香敷 榊香堂
 ● 町油通 榊香堂

鴉の嘴

第十九回

一鴉子稿

兵隊は父の死骸に取付て呼べと叫ぶ口なしの花衣血に染みて主や誰とも分かれぬと顔の色へ變り果たれば如何とすべし様なく路方なみだに尋の鏡取減食樂の響きをなまも今眼の前も御へれて涙はいと増しけるが漸やう涙を拭拭ひア一何時まで睡くも醒ない事泣くは冥土の支りと聞ば女しい心は得持さう去りながら分らぬものは人の上邊が子の願ひも亦願ひの種とす夫ハ誓こびは又なげさと變る因果同志今の今まで父とも知らず己れ濱崎仙石門天を馳れ地を滑らば滑れ無念なる養父の仇なにかは報りて置べきかと行儀はさては前伏し倒て鳥の胸を穿て恨みを忘れず付視ひしが今に思へば勿体なや一樹の蔭の雨宿りに圍らす此處の軒を借り半個の僧に對面して名乗て見れば年頃日頃等ねし誠の親形身の品の蓋と成しつゝも逢ひし喜びは依然憂ひと所を替えて暗れ間も見えぬ涙の雨に空に代へる袖もなし左りながら是も天なり命なり彼流川に逝らされ過つて我養父を殺せし實父は其身の眞意を悔ひ多年追福を修みしのみか親子の愛を犠牲として其子の前に割腹せしは誠に義あつて勇みあり己れ其子に生れながら女しき涙れ心を流らし養父の仇實父の仇又つた異竹の母の仇なる彼軍藏が首を打て佛に合す顔なしとて我から心を取直し道骸は比喩の人を顧みて産のほどもに取納り懐中したる路銀を出して佛の爲の法會を修み異竹の時へも事の由を報せて百々日まで之此處に過しぬ斯て法要果たれば兵隊ハ比喩の人を呼集り初永々の間ハ世話を預かりたれど少しく志願の事もあれ一先づ此地を打立べし迷道ながら此處ハ各々に於て預かり置き退て適當し人あらば主個となして給はれといひ町裡に頼みければ何れも快く承引の折角ハ別業となりし間もなく別れすは殘念

なり我ては今宵に於て燭一燭度し度し一人が云へば父一人明日ハ必らず私共へと我もくと云出ると兵隊強かち否みならず一日二日と日を繰りしハ十日余り過しければ明日ハ未明に出立せんと行李を調へ居る處へ一人の飛脚息者切て入來り墨ゼンレ頼申す私ハ大破とす所から遙々參つた飛脚にエすが此方に柳川兵藏様といふ侍が居なさいますかと問問置にて云入るハ兵隊ハ不審の眉をよそり大破よりの飛脚とわれハ異竹の使に相違なし百里餘りを距たる地に

信し居りし其甲斐にや此頃遂川軍藏と名乗る一人の侍此大破の町へ入込み其の別業を真別業み日夜勤末社を呼集へて遊興の外他事もなく此町に於て遂川のお六とて大方ならず跡雖し居其者の人休様子等内尋ねし誠全たけ跡のせしに違はず又修前様より承さしりし所と割符を合せし如くなれば彼こそ正しく开奴に相違あるまじくぞ存じに付朋輩の者へ頼み入れて一日も長く留置し候に合せ置ゆゆる此手紙若次第直に修出被下度再一取にがしはては千日



何用ありての使にやとやら様先へ立出れば其前様が柳川軍藏と申すか異竹様より急の手紙請狀と引替えて下われやと一封の書狀を差出すを見れば正しく異竹より己れへ宛じ書狀なれば早速脚狀を請取れ飛脚を勞らひて歸しや跡にて密狀を讀下せバ外めに實父の死を悔みし心を記し其

の事とも相成べくかど心配致し居し間くれいも早くお出の程儀に待たし書外ハ修限にがり委しく修限し上ぐべく先は用事のみあら

申して大破指して急ぎ行きたり

外人の大計畫と我實業家 獨逸に於ける重なる二十の會社同盟して我國の實業に從事せんとする事一たび新報に上れるや内外の實業に關係せるものは爲めに一驚を喫し殊に在留外商の如きハ此計畫將來果して如何に成り行くべきや我邦人之に從事せんとするもの何人なるか獨逸二十會社の代表として渡來せるもの誰れなるか之れ知らんと欲し頻に奔走しつゝあるもの如し扱此事の目下計畫中に在るとは全く事實なるも從本我國の實業事業は専ら英米佛の三國に於て其重きを致し獨逸も亦近來大に我に其勢力を伸ばさんとを努めつゝあれも彼が突飛の進歩を以て此大計畫を實際に試みんとするも果して能く行はるべきとなすや否や彼等は目下絶えず此計畫を進めつゝある趣きなれども其成功に至りては獨逸百難さるものあり然るに彼等が此計畫の外に又別に我國に大計畫を企てつゝあるものあり即ち世界に有名なるロスチャイルド家にして此計畫は資本金五千萬圓を以て銀行を設立せんとするに在り現に本邦人にして密に之が爲めに奔走し本邦人に多成者を募りつゝありと云ふ獨逸の計畫實に侮るべからざるものあれどもロスチャイルド家の大計畫も亦驚くべきものならずや戦後の我國は存外誇大に吹聴せられ本邦に於ては未だ見るべき事業の起されたるもの多からざるに於て外人中に此等の計畫を見る我實業家たるもの宜しく一考慮を要すべきことならずや

▲開業七十年の祝ひ 彼の有名なる大阿南久實寺町寺澤兵衛氏ハ本年開業の七十年に相當する由にて祝賀を表する爲め縮緬の服紗に祝の一字及び宇田川文海氏の和歌等を染出し日頃取引せる全圖各同屋へ夫々贈呈したる由

▲金融の前途 昨今東西に於ける金融は年々なるに拘はらず漸く緩慢の傾きあるより株式の如何にも多少恢復するに至れり云々者かれども或經濟家の説に依れば實際の窮乏逼迫に赴くの勢あり彼の金融上は大關係ある手形交換の如き十一月中に於ける統計は十月に比して大坂の百五十餘萬圓東京の二百餘萬圓の減少を現はし隨て各銀行の預金何れも減少せるは疑ふべからざる事實にして昨今生利市場に稍や活潑の取引ありしも三萬有餘の在積堆積せる今日之が為り金融を助くると云ふ程には至らざるべく大坂に於ける金融緩慢なりと云ふは隨り仕掛期日の延期を得るに過ぎずして第二の仕掛期日に至れば又々困難に陥るべく殊に年末に迫り商家の取引頻繁なれば金融は自然逼迫に至るは免るべからざる數なり云々

▲陶磁器製造所 英佛獨露等の諸國に於て陶磁器製造の既に充分發達し居るに拘はらず孰れも夫々其政府に於て陶磁器製造所を設けるもの之を機械化學の原理に基き熱心に其製造法を研究し營業者と相提携して其改良を計ることなるが我國の陶磁器業は反に發育せしに拘はらず之を海外諸國に比すれば其進歩甚だ遅緩にして且此等の機關なく彼の工業學校の如きも其規模小なるのみならず其目的も自ら異なれば言人に足らず而して陶磁器製造の度如きは通に人後に居る有様あり又最近我國より輸出せし陶磁器は美術品たるに非ざれば概ね玩弄品たるに過ぎざりしが今後我當業者にして少しく肉血 珈琲入等の日常費用に供する器皿に關し外人の嗜好を察し及び實用に適する物を製造したるに今より十倍の輸出を見んこと疑ひなく現に朝鮮貿易に於て戰後後開もなく日商の清商に其歩を競る如きあるに至りしに拘はらず陶磁器のみの熱心努力を現はし月商却て清商を壓倒する勢あり加藤助三郎外六十二名の市中當業者は茲に見る所あり五三會陶磁器製造の會員及び尾州、濱州及び肥前等の當業者を始め廣く全國同業者の賛同を求め第十議會の開會を待た我國に

ても早く陶磁器製造所を設立せんことを請願する由

▲マ氏の當選と各國の影響 マツキンレー氏當選の報一たび全國に達するや米國商工社會の局面は一新し閉鎖せる幾多の製造所は再び其業を始り下野せる株式は再び好況を呈し數十萬の労働者は其職を得て歐州の資本家今再び脚を米國に投じて其資本を放下せんとする形勢に至りしが之に關する歐州各國の影響及び評論の一斑を記さんに當選後四日即ち十一月七日倫敦發の電報に曰く英國市民の外非事件に注意すると今回の如きは非ず新聞紙は選舉に關して入手せるあらゆる報道を掲載し市民の其腹股如何に注目して遂に其精確なる報道を知らんと熱心し其状態も國內に於ける大事件に於けるが如くなりテグノーニル社員今朝サー、ドナルド、スミス氏を助ふや氏曰くマ氏當選せば税率に至大の變化を生ずべしとは余の領解せざる所なり何となれば彼を賛成せる者は種々多の人員より成立するを以て彼は其意を傷はんを恐れて決して税を増すの舉に出でざるべく且金派中の人と雖も亦此税率増加に反對するもの多きを以て假令其議案の提出せらるることあるも到底之を通過する能はざるべければなり又同日に於ける佛國巴黎よりの遠電に據れば曰く下院の一議員マ氏の當選を評しマ氏の當選は米國に資本を放下せる英國の資本家及び佛國の農夫を利すべしと雖も佛國の興業は保護稅主義に就て大に憂慮すべき點なきにあらずといひ又テラムル氏マ氏の保護稅主義は佛國の貿易を害するとなるべしといひ又獨逸よりの報に獨逸はマ氏の當選に關して大に其意を注ぎ選舉前一周間より各新聞紙は其報道に意を注し其其國國民一般の感情は獨逸は兩箇の困難の中に在りて已むを得ず其中の一箇を選択せざる可からず而してマ氏の當選は稍其害甚しと云ふに在りし就中最も苦慮したるは經濟社會なりしが一たびマ氏當選の報道するや銀行株式會社に生氣を加へ鐵道株亦漸次に騰貴するに至れりと云ふ

此項傳承する處に據れば弊店の名義又は代理人と稱し各地御得意様へ参り種々の口實を以て金錢等を騙取致候者有之由に候得共如何なる事を申參候共右様之儀に弊店に於て更に存せず素より無關係に御座候間此段爲念廣告仕候也

日本橋區馬場町三丁目十二番地
小問物問屋 萬屋新吉

花の御白粉 花の君石

大箱	入一箱	金六
中箱	入一箱	金五
小箱	入一箱	金四
大瓶	入一箱	金三
中瓶	入一箱	金二
小瓶	入一箱	金一

定價 付函石御高 價定 五廿七個三 五五七個三

昨冬賣高二千萬個 乙女肌卸直段表

東京莊園堂 親戚一同

發賣元 田中花玉堂

御買入小問物問屋各位に於てテ勉強奉仕候間御便宜御取引先へ御注文ノ程

岩淵の仇討 (二)

双龍貞鏡講 今村大郎 速記

然るに文化の三年、三枝道太郎改名いたして二代三枝勘解由となり、知通指前役を仰せ付けられ、櫻井とは違ひまして家督を承けて居ります。此方はそれに引替へ親子二人の命を繋ぎ兼ね、殊に當時母の病氣、介抱の手當さへ仰せまいせんから、街道へ出まじして人足となり追まわしに使はれて、僅かに壽命を繋いで居る、實に哀れはかなき有様でございます。其年の九月十一日、人足で小金吾と云ふ可笑い座敷いすから、金五郎と名前を變て、古半天に纏の帶息杖一本突て来かゝると、向うから三枝勘解由と札の付た荷物がチヨイ、見へます。是は上の修用で市ヶ谷の修上屋敷へ越すので、之を小金吾が見て、ア、なまげな事だ、阿比劍道指前役を勤めた身、隨にも喧嘩兩成、相討となつて父の其場に倒れ、勘解由も僅かに存命して我家の門口まで往たて、其家にお立てなれ、我々が取置しになり、其無念が、固つて遂に母は病氣、現在その敵が此處を通るのを武士の家に生れた此身、今年既に十八歳、身が腹さ下郎になり、心造下郎にならん、何卒いたして三枝勘解由を討取て、兩親の無念を晴したいもの、小金吾、狂氣の如くに三枝を討果さんと思へども、向分にも得物がな、どうかいまして刃物が欲しい、さうかき云て、イサカ出刃丁や剃刀位で、何と出來ず、向ふも尾州の指前番役、よしや此方の腕前が優れて居ても刃物がなく、てん敵は討れず、如何いせんと思ふ折しも、丁度向ふに土富見と云ふ茶屋がござりました、其茶屋に供をつれて若い侍が一人、扇を掛けて居りましたか、夫へ參つて土地へ兩手を突いて、小金吾、小切て折入てお願ひが停坐しますが、私し尾州名古屋の家來櫻井小金吾政嗣とす者、只今父の敵を元向番で停坐いたしました三枝勘解由とす者の侍

この處を通り掛りますので停坐しますが、刃物が無ければ敵を討取る事かたはず、最早程なく此松原へ差掛るで停坐させようが、肝心の刃物が無くて、致し方が停坐させんや、何卒貴公様の御差添を拜借いたした度、詐りは毛頭ししません、此松原に於て討合す事なれば、さうぞ武士の情と思し召てお差添をお貸下さるやうと、涙を流して申し入りました、此侍、何者か後年大捕平八郎と云て大阪時味與力を勤め、最も高名の方で停坐します、右人足の願を聞いて暫く顔を守り、ア、尤もな事だ、敵を討とらば小切を貸すも大切を貸すも思はれて、貸與へたる、常人も無念の、刀を貸て進める程に是にて本望を遂げられ、小金吾、有難う存じます、本望遂げた其上で厚く御禮をすあげます、平併しお急なされる急で、何事を仕損じるゆゑ、敵を討て事果され、少委細承知仕りました、刀を借たま、彼方をさして駆け行きました、大鹽の仲間、一旦日那街道の胡麻の繩など、云々の旨の事を致すな、平何と、世何をたつて彼様なきたない身装をして、貴公がおなまげ深い、浮氣性の烈しい事を何處から聞き出して来たか、敵を討から、脇差を貸して與なんぞと、腕を突の、脇差で、不可不から刀を持って行けど、あんな結構な刀を取られてお仕舞なると云ふ、お利口な様でも、其處のまだ修苦勞が足せんね、五馬鹿を云へ、下郎の工間でござら思ふであらうが、お願ひすと云つて、彼が眼中に涙を浮べ、正に決心した様子を、見抜たによつて貸て遣した、見よ、今に仇討があるから、と云ふ中、向うから致して一挺の乗物來りしに、彼の人足、何處に隠れて居るか、四邊を見回して居る折、其乗物、丁度松原の奥中へ差掛つたかと思ふ處へ、稲藁の影よ、致して、現れ出したのは、最前の人足で停坐します

▲喜海の代金引換小包郵便 同郵便規則は明十六日より發効にも施行することとなり
▲勸業銀行株主募集方法 勸業銀行株主募集方法に就て、同法起草の當時より、當局者の體裁を痛めたる問題にして、此問題こそ實に同銀行盛衰の依りたる所なれば、創立委員たる者、深き注意すべき、勿論なるが之に取、或當局者、目く勸業銀行株主募集、最も公平を保ち銀行の信用を盛くせざる可らず、然るに世間往々説を為して、其申込の人に依りて左右せらるべく、且既に滿株となり、故に之が株主たらんと欲する者、ハ斯々の手續を為さざる可らずといへり、是等は皆虚説を流布して私利を其間に營さんとする者の捏造のみ實際株主、今日未だ募集せられず、留に募集せられざるのみならず、其募集方法すら未だ一定せず、元來同銀行、最も若實に最も鞏固なるを要するや、云ふ迄もなきを以て、其株主の如き實際勸業家として土地其他の恒産を有し、一度株主となりし以上、永久株主として異動なき人を選ばざるべからず、彼の株券を賣買し甚しき、補利株主で買買して其間に利益を擧げんとする、投機的株主、斷じて之を排斥せざるべからず、去れ、募集方法の第一として、株主の性質を吟味し、若くは當局者に於て調査の上、大株主を指定するが如き事をも為さざるべからず、又株主として、其族親身分資産等を明記し、町村長の證明を得て申込せしむるも、一方法なれども、現に有力者にして、投機的事業を事とする者、少ならず、され、單に資産其他證明のみにて、投機者の株主たることを防、能はざるべしとの説もあり、兎に角、株主の性質を吟味し、其資産等を證明せしむるに於ては、株主中の多數、若實家の申込を得るに至らんか、又申込滿株となれば、直に其後の申込を拒絶すべきや、或一定の期間、何程にても申込を受け、其中に就て十分の選擇をなすべきや、等種々の議論あり、其邊に就て、當局者の意見も未だ決定し居らざれば、さうからず、創立委員の會議を以て一定するに至るべしとなり
▲基隆の商況 臺灣新報の報する所に據れば、凡

そ何業何商にまれ内地人の營業として、は生業に萎はれ居る、然の氣息奄々たる者の如く、意氣上らずして、而して不活潑なり、此不活潑は、取費するに商人の志慮淺薄、只徒らに野戰時代を想像、望し、少資を以て一獲千金の奇利を貪らんと、期して、破産せし者多し、猶且つ當時と雖も、野戰時代に幻影せし夢跡のみ、だし、消やられ、商業の秩序確立せず、今や裏面より基隆の商界を觀察せん、か十中の六七迄は維持に絶へず、種々苦心經營、僅かに倒木を支へんと、垂業し居る而已なれば、同地に於て、當時見切買の流行甚しきを見、無理ならぬ事見切買の商品、何品を問はず、原價の半額を標準に賣買せられ、あり、尤も其商品の種類には、些細の物あり、雖も然れども、多々千圓以上懸りたる物品の殊に見切らる、物多し、而して之れ多く、其基隆の商店に於て、從て野戰の名譽に拘らん事を、恐れ、勿に此窮策を施し、つゝあるなり、一見相當立派なる見世と雖も、金融のヤリ、其商品に對し、利害得失を考ふるの暇なく、一時も早く金に換へ、融通今日を綱繩せんとするの念、日にして金額の多寡を論ずるの暇なれば、遂に以て買入をして、原價の半額を標準と爲さしむるにいたれり、一触不振なる此一事に就て見るも、明かならんのみ云

▲基隆の女娶結 日を追ひ月を重ねる毎に、渡臺の婦人多く、己に六月一箇月のみにて歸省渡臺の婦人、差引幾回二百二十九人あり、民政になりたる以來、渡臺したる婦人は、約二千五百名以上、歸省したる者三百名と、在、台婦人は、三千二百人以上あり、其内千人は、他處に散在するならん、は、雖も、在、台北の婦人は、確かに二千三百名以上あり、此内六百名は、自分で娶結するもの、すれば、残り、は、悉く、娶結の手に、より、娶結するもの、此婦人多くは、買入、娶結、茶屋女なれば、一箇月、娶結する、すれば、計、六千、回、な、此、買金、一人、二十、錢、なれば、十五、錢、の、も、あれ、と、一箇月、女、娶結、に、仕、拂、金、高、は、實、に、千、二、百、圓、と、なる、なり、故、に、目、下、女、娶結、(下、梳、と、も、一、人、の、收、入、は、一、箇、月、六、十、四、兩、乃至、七、五、圓、なり、と、云、ふ

男女と問はず眞の白色美人となるは此薬に限る

第一白色艶美の光澤や出ま 鉛毒を消去顔あざ黒くわれ症にさびンカス或は無名のぼつ布つ出来顔の皮むけ又は紫色の塊出来あせも日にやけひまもやけ等起て皮膚の毒とりをきまをよかに能く小兒くさ暗毒の類は忽ち治すキレ水の製法は全く普通化粧品と異りて 一種特別の調劑なれば彼のリスリン劑又は蒸溜水製のものならず殊に白粉下に用ゆれば鉛毒を防ぎ白粉のびよく地上を静め邪氣を拂ふ當時化粧水の種類多しと雖も外國輸出多く日増に買高増加するも全く原料宜敷なる可也

品用御省内宮

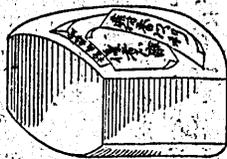


本舖にては空瓶を預き贈替も致さ升定價は小十錢廿錢五十錢一圓たれし小瓶金五錢送國へ送料十錢瓶は四錢以上一箱送料十五錢相係候 大木 口哲 永井 永進堂 永井 永進堂 永井 永進堂 永井 永進堂

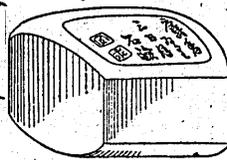


本舖 東京外神田花房町角 山崎帝國堂 發賣元 兩國米町五丁目本舖 永井 永進堂 永井 永進堂 永井 永進堂 永井 永進堂

安麿 永香之 製造 石 香 優



三日



菊印



特約販賣東京小間物問屋各店

大販賣所 日本橋區馬喰町一丁目平尾賢平

Advertisement for 'Shikishime' (親玉牡丹) featuring a woman's face and decorative text. Includes price information: 定價 一員 二錢 五錢.

親王家御用すみじき

Advertisement for 'White Light' (白光) featuring a crown and decorative border. Text includes 'TRADE MARK', '御用', and '製郎次喜光橋三堂實盛'.

全國至る所の高名も貴藥店和洋小間物店 取次有之候御最寄り御求めを乞ふ 東京横山所三丁目 三橋鬼喜次郎

諸官省御用 ●全國五二會品評會に於て 進歩銅牌受領

Advertisement for 'Kaminari' (電甲) featuring a lightning bolt and the text '人印石燐は光力非常に強く炎上油煙なし其保つ時間長く故に 經濟的に利益あることを在るの端 均に比強と二倍強に當る具原料 以我國の購買なれば其染なく極めて 清潔なるを以て神佛燈火及家庭等に宜し 尤適し殊に美麗なるを以て御進物等に宜し 大形五時間中形四時間小形三時間持受台 製造發賣元東京馬喰町二丁目 花王石燐本舖(電話)長瀬富郎

電甲御祝儀用櫛笄製造御賣 東京千代田区三谷屋工場内 いせき屋音吉

はき物 (時事新聞) (前巻の續) 下駄の来歴新くの如しとされ三二番二番は殆ど其特性の如く...

又市上へ販賣せし数は左の如し 明治三十四年 四二七〇〇〇足 明治三十五年 四三〇〇〇〇足...

SNOW 本舗 大坂商社 石丸商社 東京市街に於ては雪の如く...

特約販賣 日本橋區馬喰町 進行舎 可兒鏡三郎謹言 田中萬村長 萬屋金五郎 中屋花玉堂

商標 TRANSPARENT EXPORT TOILET SOAP 透明石鹼販賣御披露 獨逸國...

大坂屋 松澤八右衛門 東京市街に於ては雪の如く...

東京市街に於ては雪の如く... 大坂屋 松澤八右衛門 電話本局五百三十四番

花の雪 東京市街に於ては雪の如く... 大坂屋 松澤八右衛門

天古

主従日用後目

手帳の式目... 主人と大切に... 一、主人と大切に... 一、主人と大切に... 一、主人と大切に...

小使の式目

一、主人と大切に... 一、主人と大切に... 一、主人と大切に... 一、主人と大切に...

都の花... 天下無比衛生的顔料優等化粧品... 莫大小製造卸賣告... 東京小間物卸商組合... 東京鬼一義太夫本板元... 白花王... 肌着靴下各種... 莫大小製造卸賣告... 東京小間物卸商組合... 東京鬼一義太夫本板元... 白花王... 肌着靴下各種...

▲**わけ問答** (未完)
 ▲**打撲もどき** 昨夜の打撲は、今朝も痛む。昨日の打撲は、今朝も痛む。昨日の打撲は、今朝も痛む。
 ▲**非人にあらず** 非人にあらず。非人にあらず。非人にあらず。
 ▲**未になら** 未になら。未になら。未になら。
 ▲**新米** 新米。新米。新米。
 ▲**押しつぶし** 押しつぶし。押しつぶし。押しつぶし。
 ▲**将もなき** 将もなき。将もなき。将もなき。
 ▲**善人がい** 善人がい。善人がい。善人がい。
 ▲**空に** 空に。空に。空に。
 ▲**有** 有。有。有。
 ▲**白** 白。白。白。
 ▲**思** 思。思。思。
 ▲**聖中** 聖中。聖中。聖中。
 ▲**幅** 幅。幅。幅。
 ▲**舞** 舞。舞。舞。
 ▲**敷** 敷。敷。敷。
 ▲**樂** 樂。樂。樂。
 ▲**かけ** かけ。かけ。かけ。
 ▲**木** 木。木。木。
 ▲**細** 細。細。細。
 ▲**神** 神。神。神。
 ▲**水** 水。水。水。
 ▲**か** か。か。か。
 ▲**の** の。の。の。
 ▲**花** 花。花。花。
 ▲**早** 早。早。早。
 ▲**糸** 糸。糸。糸。
 ▲**柱** 柱。柱。柱。
 ▲**病** 病。病。病。
 ▲**てん** てん。てん。てん。
 ▲**草** 草。草。草。

●**能役者**にもあらぬ紙を奉書。養生云云。
 ●**子供**も渡りながら親交。養生云云。
 ●**考へ**なく渡りても思案。養生云云。
 ▲**昔は**なきを思ふ事。養生云云。
 いかしめし人の。養生云云。
 ひかすなれりける世の中。養生云云。
 物なれば見るもの。養生云云。
 し山に遊花。養生云云。
 しにもれざらん。養生云云。
 かきながら。養生云云。
 かに。養生云云。
 積。養生云云。
 野。養生云云。
 五。養生云云。
 通。養生云云。
 生。養生云云。
 此。養生云云。
 せ。養生云云。
 さ。養生云云。
 な。養生云云。
 さ。養生云云。
 り。養生云云。
 り。養生云云。
 り。養生云云。
 天。養生云云。
 弘。養生云云。
 二。養生云云。
 立。養生云云。
 正。養生云云。
 戸。養生云云。
 を。養生云云。
 の。養生云云。
 ▲**葉**のもの。養生云云。
 納。養生云云。
 咄。養生云云。
 今。養生云云。
 物。養生云云。

新製 宝来やうトホネ
 衛生上の有益な佳品あり
 製造 東京 大和屋小兵衛

 右の特約店... 大和屋小兵衛

全世無比
 玉の肌 丸袋兼用玉の肌石鹸

 本舗 東京市芝西門
 取次所 全国至る處の賣藥店

木樨類眼鏡類
造花用種類式
 各店製有名化粧品取次販賣 三味線店前川支店

 前川忠兵衛
當世新形 魁小間物問屋
 花巻根掛。特約品大販賣
 龜屋 前川山町一丁目

特約店 大和屋小兵衛 三味線店前川支店 前川忠兵衛

くろくろ 煉灰 面赤 空氣 常備

煉灰 煉灰 煉灰 煉灰

煉灰 煉灰 煉灰 煉灰

製造本舖 大販賣 東京小間物卸商組合中

煉灰小器金十五錢

煉灰小器金十五錢

製造本舖 大販賣 東京小間物卸商組合中

煉灰小器金十五錢

雪印梅

煉灰小器金十五錢

神田区 利軒 煉灰 煉灰 煉灰

煉灰 煉灰 煉灰 煉灰

煉灰 煉灰 煉灰 煉灰

製造本舖 大販賣 東京小間物卸商組合中

煉灰小器金十五錢

車艦はみかき

煉灰小器金十五錢

製造本舖 大販賣 東京小間物卸商組合中

煉灰小器金十五錢

煉灰小器金十五錢

煉灰小器金十五錢

江川商厦賣品廣告

龍甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種

舶來最上人造黒茶本ゴム 櫛各種

舶來最上人造ゴム無地龍甲ばら各種

舶來最上人造ゴム象牙櫛簪各種

發賣全 上總屋 江川金右衛門

小間物問屋 同支店

全世醫界之無敵

捷全陸海 念紀征遠

植物性 精神恍惚

爽快

田中花三堂

丸見屋善兵衛

電話浪花四百四十八番

丸見屋善兵衛

元祖

濟録登御省務商農國而本日大

東京馬喰町壹丁目

小町水



岳陽堂平尾賛平製

別製大瓶一箱十二本入 定價二瓶入 廿五錢
大瓶一箱十本入全 三十錢
中瓶一箱十五本入全 八錢
小瓶一箱廿四本入全 五錢

御便利の爲め正味詰替品も販賣仕候即ち二合入四合入八合入五勺入四合入石油明箱へ十四本小町水八錢賣の瓶に凡廿七八本の詰替に相成申候

本品は世上販賣品と異なり我國にて合劑せざる効驗藥品を以て製造し身體を害する事なく第一ひびきそばがすはたけのたじむじき外吹出物面手足のあれこしわをのび夏日に焼すあせもくひ等の憂なき眞に潔白美艶なる肌夕イヤモンドの命名に背かず請ふ御便用上効能を知り賜へ

懐中 白たば 夫工新 十丸

陸海軍御用 近頃非常名高さはみゆき 米國シカゴ府 グレイド會社製

啓用人 新駒屋 中村 福助 赤心堂

發賣元 日本橋小網町三丁目 日本橋堀通

發賣代理店 東京橋本町二丁目 田中花王堂

特約 京橋區銀座三丁目 松澤八右衛門

大阪 日本橋區瀬戸物町 山玉置金店

大坂南區戎橋北詰 中商店

SANTALINE DENTIFRICH TRADE MARK

CRUDE & CO CHICAGO

益田廣徳先生御信認

益田廣徳先生御信認

特約店 電話浪花四十二番

協田盛眞堂

新形 筒前金物 問屋 長谷川大耶

各種 筒前金物 問屋 長谷川大耶

東京朝日新聞

第五卷



稟告

當商報の儀各位の御引立を以て日に月
 隆盛を極め茲に無事第二の新年を迎
 んとす是全く名位御愛顧の厚きに因り
 候儀と深く奉感謝候就ては右御厚意に
 酬んが爲め來三拾年一月五月初刊の第
 四拾五號は通常拾六面を倍して三拾二
 面と爲し之に當今有名の畫伯小林清親
 翁の揮毫に係る

を添て進呈仕候間何卒不相變御愛顧の
 程伏而奉懇願候敬白

美麗錦繪大附録

東京小間物商報

發行所

雜報

營業稅屆

營業稅法實施に付大蔵大臣は其届出方を左の通り制
 定公布せられたり

大蔵省令第十八號
 明治二十九年法律第三十三號營業稅法に關する
 業名及び課稅標準屆書に左の様式に準じて調製
 し所轄稅務署に差出すべし但し北海道は明治三十
 十年三月三十一日までは所轄郡區役所に差出す
 べし

課稅標準中資本金額、建物賃賃格及び従業者
 は各其の計算を別にする爲り計算の基に處及營
 業稅法施行規則第二條但書に關する計算上の要
 件を詳記したる明細書を届書に添附すべし但し
 課稅標準額を豫算する場合に於ては売上金、請
 負金及報償金を算すも仍本項に準據すべし
 明治二十九年十二月十八日

明治何年營業業名及課稅標準屆
 營業場所(郡區何部(市)區)何町(村)大字何何番
 地番號

口廣告料 (一圓以上六圓迄九錢七圓以上八圓)
 發行所 東京小間物商報會社

- 一 何何業
 何何商何何製造
- 一 賣上金額
 何程
- 一 資本金額
 何程
- 一 借入金額
 何程
- 一 價額金額
 何程
- 一 建物賃賃格
 何程
- 一 従業者
 何人(内職工何人發役者何人(職工勞
 働者何人)別課稅要件(第三條第一項)
 何年何月何日開業(何業法第十三條第一項)
 何業に該當する者に限る)
- 右の通りに候也
- 年月日 住所(會社)の位置
- 氏名 名印
 (何々會社代表者名印)

北海道廳長官氏 名宛

某地稅務管理局長氏名宛

一 營業稅法第一條の營業種類及營業稅を課せら
 れるべき店舗其の他營業場所毎に各別紙に記載す
 るべし但し一稅務署所轄内(北海道は明治三十
 年三月三十一日までは郡區役所轄内)に於て三
 十餘の店舗其の他營業場所を併けて同種の營業
 を爲す者、其の店舗其の他營業場所を併けて
 營業名及課稅標準額を記載するも妨げなし
 二 一稅務署轄内(北海道は明治三十年三月三
 十一日までは郡區役所轄内)に於て數種の
 營業を爲す者は各届書中營業名記の下に其兼
 業名を記載すべし

高等教育會議新設

高等教育會議設置の事は再議議會より政府に建議
 要求せしむ伊藤前首相及び西園寺前文相等へ遂に
 之を採用せざりしが松方現首相及び秋篠實現文相
 は去十八日を以て左の規則を公布せらる

勅令第三百九十九號 高等教育會議規則

第一條 高等教育會議は文部大臣の監督を受け
 教育に關する事項に就き文部大臣の諮詢に應じ
 意見を開申す。其の意見は高等教育會議は教育に
 關する事項に付其の意見を文部大臣に具申する
 ことを得。第三條 高等教育會議は左の職員を
 以て之を組織す

- 一 帝國大學總長及各分科大學長
- 二 文部省各局長
- 三 高等師範學校校長及女子高等師範學校校長
- 四 高等商業學校校長東京工業學校校長及東京美術
 學校校長
- 五 高等學校校長一人
- 六 學識ある者又は教育事業に關係ある者七人
 以內

前項職員(職務上當然職員たる者を除く)外文部
 大臣の奏請に依り内閣に於て之を命ず。第四條
 文部大臣は必要に依り前條の外部下等官を
 高等教育會議の會議に出席せしむることを
 得但し可否の數に加以らざる。第五條 高等教育
 會議に議長を置き文部大臣の奏請に依り議員中
 に議長たる者を命ず。議長事放あるときは議員中
 於て議長代理者を互選す。第六條 議長は議事
 規則に依り議事を整理し會議の決議を文部大臣
 に具申す。第七條 高等教育會議は會務整理の
 爲め規則を議定し文部大臣の認可を受くべし。

第八條 高等教育會議は秘密會議とす。高等教育
 會議は職務を以て出席するの外傍聴者を許さず。
 第九條 高等教育會議の日時、文部大臣に於て
 必要に應じ臨時之を定む。第十條 議長及議員
 の任期は三箇年を以て一期とす。第十條 議長
 及議員には一箇年三百圓以内の手當を給する
 とす。第十一條 第十條及第十一條の規定は
 職務上當然職員たるものに之を適用せず。第十
 二條 高等教育會議に書記一名を置き議長の
 指揮を受け議事の筆記及び會務に従事せしむ。第十
 三條 第十條此の勅令は明治三十年四月一日よ
 り施行す。

▲痘瘡に關する訓令 去十八日樺山內務大臣は
 各地方長官へ左の訓令を發せらる

春來 東京大坂及び宮城地方に流行せる痘瘡は
 夏時に際し一時稍々衰へしも秋冬の候に至るや
 流行再燃今や東京、兵庫、大坂、關岡及び沖繩
 等の各地に於ては益々其勢を逞まし中國四國
 亦漸く流行を見るに至れり抑て痘瘡の預防には
 備身潔實なる種痘法ありと雖も消滅其他の注意
 と相待て周到するに非ざれば其効を完するること
 と難しとす然るに此有効なる種痘法を以て内に
 深く依頼する所ある爲め預防の事勵まされば種
 痘普及の一方に偏倚し消滅其他の注意に至ては
 往々に之を等閑に付し去るものあるを各地方
 に於ては能く此邊に留意し種痘の普及と同時に
 消毒法の施行を嚴重ならしむる様注意すべし

●全國戶口數 明治二十八年末内務省の調査に依り、全國の戶數七百九十三萬五千九百六十九、人口四千二百二十七萬六千二百、内男二千三百三十四萬五千七百五十、女二千九百九十二萬四千八百七十にして之を族別にすれば、華族四千六百六十二、士族二百五十五萬四千四百、平民四千廿一萬六千三百三十四、又其有配偶者は七百七十三萬四千七百六十六、無配偶者は千五百四十六萬八千五百五十二人、無配偶者は男子三百六十一萬六千七百七十四、女子三百十九萬七千九百四十四、即ち女の方が四十二萬八千八百八十人少き、勘定なり、又同年出生したるものは男六十三萬八千八百九十五、女六十萬七千五百三十二、合計百二十四萬六千四百二十七、死亡したるは男四十四萬八千八百七十三、女四十萬三千五百四十九、合計八十五萬二千四百二十二、即ち生の死に超ゆること三十九萬四千五百五十二人、又同年中結婚の數は三十六萬五千六百三十三件にして離婚は十一萬八千三百八十八件ありしと云ふ

●全國高齡者數 明治廿八年末現在の高齡者にて百歳以上のものを表示すれば左の如くなりしとす

年齢	男	女	計
百一年	一八	四五	六三
百二年	一八	四五	六三
百三年	一七	四五	六二
百四年	一七	四五	六二
百五年	一七	四五	六二
百六年	一七	四五	六二
百七年	一七	四五	六二
百八年	一七	四五	六二
百九年	一七	四五	六二
百十年	一七	四五	六二
總計	一四七	一九九	三四六

概して女子は男子より高齡なるもの多しと知べし

●都市の人口 明治廿八年末の調査に依り、全國にて十萬以上の人口(現住)を有する都市は左の如し

市名	本籍人	現住人
東京市	八六二、三三三	一、二六八、九三〇
京都市	二七四、五八四	三〇〇、〇一〇

大坂市 三三八、二一八
横濱市 七三、八五九
神戸市 一〇九、七八四
倉屋市 一五〇、五五五
廣島市 八八、二二三

(禁轉載)

▲檜木 黄檗の類、生地少々入荷なれども何分注文多き故に品間に合す

▲竹唐櫛 地出来中物上物賣口よし並物の職手間高直の爲り二〇以下の物は當分出来ず

▲六櫛 黄檗及び檜木、ソノノ賣行

▲黄檗及び南京の毛筋立 生地抽底にて注文間に合す

▲元結の類 相變らず高直金元結、極太、中細、賣口よし

▲化粧下の類 乙女はた、雪の梅、あれしらす、梅が香、ねがりすりん、花袋、小町水、美人水、キレー水、大和水、艶顔水、艶の水、デキメン水、薔の露、其他有各品種々ありづれも賣口よし

▲桜中鏡 差込の類安物にて大いに向よし

▲額鏡 塗漆二枚引以下小物の類賣行あり

▲石鹼 香ひ入物及び舶來の中等品並びに地製五六〇より三四〇位の處相變らず向よし

▲石鹼入 各種とも向よしはれども就中タン製の中下物賣行あり

▲落口紅 釜の生地品切にて當分間に合す故に大玉川賣口よし

▲鋼たば 象眼物、繪付、雜物、半金、物金、時鐘の類、丸、角、平、柳、太細の品上中下とも賣口よし

▲鑿留 上物向よし

▲丸籠形 燈心入、綿入共各店の流行形いづれも向よし

▲付留 中厚物賣口よし

▲唐人籠 子供物相變らず向よし

▲竹楊枝 光毛三行物賣行あり

▲鯨毛楊枝 生地抽底品間に合す

▲角楊枝 光毛上中物向よし

▲小楊枝 相變らず並物出来す且つ退々高直

▲筆楊枝 材料抽底の爲り當分品切

▲絹織の類 無地大房物流行せり

▲内記打物 右同斷二〇以下の物、工賃高直の爲り品數出来ず

▲水引の類 二〇以上十〇位の物、相變らずの賣行あり、原金細付大物中物も亦向よし

▲水長尺の類 靱妻、金銀形付、色繪物、白引可なりとの賣行

▲メリンヌモス絨 相變らず賣口よし

▲角かん 新形の向よし、上等物十〇以上七八十〇位なる一月向の物賣口よし

▲金かんざし 春賣の物新形種々あり何れも賣口よし

▲玉根掛、モール根掛 上中下とも賣行あり

▲牛櫛 三八、四寸、四二、四五の物にて、福鬘、班入、無地二丁物、一丁厚肉上中物賣口よし

▲ゴム自由兩天 細足、耳付、玉入の類向よし

▲髪かさ ゴムばら上中物賣口よし

▲時給櫛 上中物、粗物、二徳、三徳、はなれ物かしやと差向よし

▲推朱物 高等向大に賣口よし

▲一等洋 玉入、祇園、名古屋形、松葉形物、三四〇付より二〇付位の物賣口よし、並洋も右同様の向あり

▲鋼かん 祇園、名古屋形、玉入、玉なし、三〇前後の物向よし

▲花かんざし 相變らず花物の房付及び花籠の類大に流行

▲ゴム花の類 ね刺房付、大中小、及び透し向

▲かんざし玉 紋形の類賣口よし

▲かんざし玉 玉、推朱、あるみ、時給、丁貝、角、彫玉の類流行

▲推朱彫玉 玉入形の流行、彼の橋町四丁目丸善商店の創製に係る推朱彫玉の橋、兩天、自由、鷲玉等は目下非常の流行を極り猶ほ榮繁

千鳥 露、其他數種模倣入の類に一倍の光彩を輝へて大いに賣行を増し、日々工匠を召集して製造しつゝあるが實に近來推朱彫流行以來の大立物となりたりと云ふ又同店にて、季節向かんざし類の新形數十種を發賣せしが何れも最新意匠に本格的なものにして、中、推朱彫、時給、木根、くじ、象形彫連に、金花松竹梅の如き、殊に賣行多しといふ例もながら同店の新意匠も勉強に感入るなり

○ゆきせし齒磨の外國注文、馬喰町一丁目金城堂大野金五郎氏方にて製造發賣の高等齒磨めざしと云へる、其名海外にまで聞へ、和蘭國ニユーデルラント州アムステルダム、モーストン商會より該品の見本を請求し來りし由、會て本紙に記載せし處なるが同店にて、右に對し直ちに數種の見本を送致せしに、此程同商會より該齒磨の良好にして頗る嗜好に適する旨を賞賛し各品とも數百メー、スプの注文を爲し、猶ほ將來親密なる取引を爲さん事を申込み來りたりと云ふ是れ大野氏一人の名譽のみならず又同業者の名譽と謂ふべし

謝辭

左に列記する諸氏の教れも當時の實業界中に於て其名譽最も尊々たるの人々なるが其熱誠の溢る、所又我商報の同業者を益する事なからざるを賞揚せられ加ふるに印刷費補助として各金若干の寄贈を賜へり弊組合及商報の面目に過す依て略備ながら茲に實名を列記して聊か其厚意を深謝す

(記名順序不同御海恕)

越後國長岡	田村力造君
播磨國北條町	尾之作兵衛君
大坂市瓦屋町	森 孫兵衛君
越後國高田	同盟會員 某君
同 村松	山田 龜造君
同 六郷町	小西直吉君
長崎島原	松本商店君
北海道日高國浦河	石川伊之吉君
羽前米澤立町	丁子屋吉藏君

本組合録事

▲總會新年度 來三十年一月に於ける本組合總會新年度の會場其他此程の役員會に於て左の如く決定せり

一 會 芝公園紅葉館
一 役員會 一月十一日 午後正一時
一 役員會 一月七日迄に本組合事務所へ持参付の投票用紙は其前事務所より各員に配布す

▲組合規約書其他 本組合規約書、人名簿、廿九年度計算報告書、投票用紙等いづれも出來に付各員へ廻送す

▲清國貨の郵便税 清國北京鎮江宜昌九江南京温州蘇州鎮江太沽宛郵便物の税率は明年一月一日より左の通り改定せらるる(通関手告示)

▲小銀行の赤字益々甚だし 前年の紙上にも記載せし如くなるが猶更なるに依れば東北地方に於て小銀行の不足を感したるは前月以來の事にして之を越し更に甚するものあり

▲地方の寒水 近頃の寒水を見るに昨今の商況として感するのみならず内陸なれば寒水を見る

▲地方の寒水 近頃の寒水を見るに昨今の商況として感するのみならず内陸なれば寒水を見る

迎ふる仕度の暇につれ一般の商業も活氣を帯びて來りしや一月の風が吹かると云ふ有様に先づ第一氣商賣として料理店やひのき屋が新調の衣裳に苦心し或は婦女子供のそれ々に指折り數へて新年の來らしむるに待受け顔は一年來の景色をして驚きならしむるものなるが新調の衣裳を正月の月何のものかは別段一月の新衣裳を調製せんとする程もなく其他の社會も別段平常と取分て評判する程のことなく極度として以實に務められたるなり

▲地方の寒水 近頃の寒水を見るに昨今の商況として感するのみならず内陸なれば寒水を見る

▲地方の寒水 近頃の寒水を見るに昨今の商況として感するのみならず内陸なれば寒水を見る

▲地方の寒水 近頃の寒水を見るに昨今の商況として感するのみならず内陸なれば寒水を見る

東京市内同業者諸君に謹告ス

拜啓各位益々御隆盛奉賀候節、抽店御從來より市内同業者諸君ノ御便利ナリ計御注文何ヒトシテ時々店員差出候處明年一月より御注文ノ多少ヲ論テズ一層薄利現金大勉強着實ト專一ト御取次申上候間不相變御愛顧ノ程偏ニ願上候也順言

再伸 萬一參上セシ店員中各位ニ對シ不都合ナル事有之候節ハ御遠慮ナク電話又ハ書面ニテ御一報願度尤モ時々取締、副取締參上仕候間其節御申渡被下候テモ宜シク候也

○各方面相廻り候日數左ノ通り

品川方面 芝、有馬、品川、京橋。

麴町方面 四ッ谷、赤坂附近。

千住方面 近草、下谷、千住附。

牛込方面 外神田、本郷、小石川。

本所方面 本所、深川、八丁堀。

賣藥化問屋 小町水 本店 岳陽堂 平尾 贊平商店

東京市日本橋區馬喰町一丁目 電話花六百五十二番

營業主任 平尾 贊平

市中區取締 市中區取締 市中區取締 市中區取締 市中區取締

高野 榮次 助三 片山 一助 中野 三郎 北田 昌利 田口 信三 山ノ口 三郎 野田 三郎

定價 大瓶廿錢 小瓶拾錢

純良水齒磨

トクトル



平常之を用れば齒の根を堅固ニ齒色を潔白ニ口臭之患を除去あり隨て胃の消化を助く其外口中より發する諸病を豫防するの効あり

東京市銀座一 同橋町四一近 佐々木 芳兵衛 九兒屋 善兵衛 近江屋 源七 同馬喰町三 武井 謙三

特約大販賣

▲株式會社(五)會共同購買所假定案(東京)

第六條 役員及其權限
 第七條 監査役 五名
 第八條 取締役及監査役は株主總會に於て
 第九條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十一條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十二條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十三條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十四條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十五條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十六條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十七條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十八條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第十九條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第二十條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第二十一條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第二十二條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第二十三條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第二十四條 取締役は業務上必要と認めるときは
 第二十五條 取締役は業務上必要と認めるときは

第七條 處務規程

第三十六條 取締役會は何時にても其議に付すべ
 第三十七條 損益計算書、財産目録、貸借對照表
 第三十八條 取締役會の事務整理の爲め分限を設け
 第三十九條 監査役は一月一回以上商法
 第四十條 前各條に定むるもの外業務施行に關
 第四十一條 所長の報酬及理事の給料並
 第四十二條 代務人及び商業使用人の給料及び旅
 第四十三條 役員及び職員の手當金を毎事業年度
 第四十四條 當會社の事業年度は毎年一月一日に
 第四十五條 事業年度内に於ける損益の計算ハ
 第四十六條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第四十七條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第四十八條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第四十九條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十一條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十二條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十三條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十四條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十五條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十六條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十七條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十八條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第五十九條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十一條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十二條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十三條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十四條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十五條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十六條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十七條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十八條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第六十九條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十一條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十二條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十三條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十四條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十五條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十六條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十七條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十八條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第七十九條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十一條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十二條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十三條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十四條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十五條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十六條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十七條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十八條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第八十九條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十一條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十二條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十三條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十四條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十五條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十六條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十七條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十八條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第九十九條 純益金の左の割合に依り配當す但配
 第一百條 純益金の左の割合に依り配當す但配

第四回新發明專賣特許

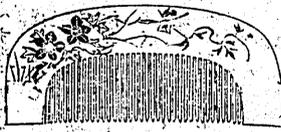
雲井織
 御婦人用 坂根兄弟商會
 製造 元 加納作之助
 販賣 元 加納作之助
 發明製造 元 加納作之助
 織物 元 加納作之助
 三浦絨 元 加納作之助
 種の新發明に依り頗る
 暎に之を織成にして頗る
 清水にて之を洗ふ時は
 元の美麗に立戻るる原
 糸染料共に充分其精を撰
 びて幾度洗ふとも夫が地
 質を損じ又伸縮變色等の
 憂ひは決して之をなく殊に
 格も廉にして之を流行
 季節向何れ御好み次第に
 御試用の上願御注文の爲め而奉願
 日本橋區橋町四丁目電話四四八番
 東京發賣元丸見屋善兵衛
 特約大阪發賣天野源七
 特約大阪發賣森本支店
 特約東京小間物問屋各店
 其他全國各處の小間物店販賣店に販賣仕儀

貴嬢紳士の香料
 小瓶價三拾五錢
 中瓶價四拾五錢
 大瓶價六拾五錢
 此の香料は、
 香りが優美で、
 洗濯後も
 香りが残る
 爲めに、
 貴嬢紳士の
 香水として
 最適です。

星野與兵衛
 電話本局九百三十九番
 市内は勿論全園各地の
 取次全園各地の
 取次全園各地の
 取次全園各地の

丸見屋
 東京小間物問屋各店
 日本橋區橋町四丁目電話四四八番
 特約大阪發賣天野源七
 特約大阪發賣森本支店
 特約東京小間物問屋各店
 其他全國各處の小間物店販賣店に販賣仕儀

廣 告



高尚美術彫刻 高尚優美蒔繪彫刻

本甲臺蒔繪彫刻揃物櫛笄
惣張臺黒唐代生地繪金地
高評漣彫揃物櫛笄簪中差
推朱彫揃物櫛笄簪兩天一貫
新形朱推朱政子。政子鬢
各種共柳鬢系政子形銃形
上等玉入簪向差長房付簪

善
婦人小間物有名化粧品類丸見屋
婦人小間物有名化粧品類丸見屋
婦人小間物有名化粧品類丸見屋
婦人小間物有名化粧品類丸見屋

花王石鹸

花王石鹸は皮膚の美艶を増し且衛生上大に
特功あるは已に需用者諸君の賞賛の如し委託は本品に能書を附す
花王石鹸は宮内省。陸海軍。帝國醫科大學。其他各病院
の御用を命せられ夙に内外需用諸君の高評を博し且第四回内閣勳業
博覽會に於ては有効二等賞牌。全國五二會品評會に於て銀牌を受領す
退伸組製の類以品有之に付花王石鹸登錄商標及長瀬富郎名義に御注進の上御求を乞
製造發賣本舖 東京馬喰町三丁目 長瀬富郎 謹啟
市内の勿論全國到所有の和洋小間物店及賣藥店に大販賣所有の候間最寄にて御取次を乞



藥劑師 末吉先生 藥品發明
工學士 高峯 國吉先生 試驗證明
受生病況々長 中村 須賀先生 試驗證明
工學士 飯島 須賀先生 試驗證明
醫學博士 ヲクトル 飯島 須賀先生 試驗證明
醫學博士 佐藤 三吉先生 試驗證明
此の他各大家の賞状あるも略す

●二色を白くし美艶はだとな
び。そわかす。はたけ。あせび。た
ひしの類。ひび。しもやけ。た
はだのあれ。総て皮膚病
一切に効なり
定價一個金拾貳錢
桐箱三個入卅五錢

製造本舖 東京小間物卸商組合申
大販賣東京小間物卸商組合申

丹頂堂 ●發賣元
田中花王堂
同賣藥卸商組合申

西洋花いかな

品質純良芳香卓絶ニシテ價格廉
廉ナルハ弊舖ノ保証スル所ナリ

定價 大貝入二錢
中貝入一錢

特約割引法
大貝入一箱十二個入五圓未滿五折
中貝入一箱五十二個入廿圓以上五折
大貝入一箱五十二個入廿圓以上五折
中貝入一箱五十二個入廿圓以上五折
相繼可仕候

引石板等御入用之簡へ向
三々無代見上可仕候

諸官省御用 ●全國五二會品評會に於て 進歩銅牌受領

人印石燭

人印石燭は光力非常に強く炭
上油煙なし其保つ時而後故に
經濟上利益あることを在來の燭
燭に比し殆ど二倍強に當る其原料
は我國の礦産なれば臭氣なく極めて
清潔なるを以て神佛燈火及家庭家には
尤適し殊に美觀なるを以て御進物等に宜し
大形五時間中形四時間小形三時間持受合
製造發賣元東京馬喰町三丁目
花王石燭本舖(電話九三三) 長瀬富郎 謹啟
市内十軒以上御進物店外八軒迄見取無代
近來知れり人印商標長瀬富郎名義に御注意を

鹿印煉齒磨

眞質佳味ニシテ衛生上
最効能アリ使用後精神ノ
爽快ナルハ本品ノ特色ナリ

發賣元 東京馬喰町三丁目(電話九三三)
花王石燭本舖 長瀬富郎 謹啟

鴉の嘴

第二十回 一 鴉子稿一

兵藏の奥行の迎ひに接して取るもの取りあへず夜襲かけて追を急ぎ百里餘り大磯まで十日程にて着ければ例も



旅宿一行季を預け勢を休む暇もなく草鞋の紐とくと急ぎ浪花屋へ

坐すかエ オヤ能い所へ浮舟さん柳川の巨那様が歸りました

いたソ切つた子と馬の騒ぐに兵藏も奥行も不審ながら急ぎ其場へ

三基の位牌の前に割腹して果たると奥行の後に

兵藏の奥行の迎ひに接して取るもの取りあへず夜襲かけて追を急ぎ百里餘り大磯まで十日程にて着ければ例も

坐すかエ オヤ能い所へ浮舟さん柳川の巨那様が歸りました

いたソ切つた子と馬の騒ぐに兵藏も奥行も不審ながら急ぎ其場へ

三基の位牌の前に割腹して果たると奥行の後に



兵藏の奥行の迎ひに接して取るもの取りあへず夜襲かけて追を急ぎ百里餘り大磯まで十日程にて着ければ例も

坐すかエ オヤ能い所へ浮舟さん柳川の巨那様が歸りました

いたソ切つた子と馬の騒ぐに兵藏も奥行も不審ながら急ぎ其場へ

三基の位牌の前に割腹して果たると奥行の後に

伊木利の學者が心臓の鼓動を恰も手に取らぬを得る新機械を發明せる由り...

▲市の市... 人の市に... 骨皮商人が... 市の市に... 骨皮商人が... 市の市に...

方今髪類原毛非常之騰貴... 成下度奉願上候也... 諸國御客様... 東京鬚職組合



新製宝来やうー... 製造發賣元 大和屋小兵衛... 特約大販賣店... 伊勢吉... 井筒堂... 丸善... 萬金...



近世無比... 關西特約大販賣... 井上作次郎... 山田篤三謹製

▲博覽會評議員會議の結果 此島米農商務省接上の會議室に於て開會中なりし臨時博覽會評議員會は去る十四日を以て終了を告げたる由なるが今回同會への諮問は都合六案にして其審議修正可決したるもの比左の如くなりしと

第一問 出品選擇の方針
 一諸産物は既に貿易品として若干の販路を有し若くは幾多の販路を有するに至らざる。將來大に之を擴張するの見込あるものに限る。
 一諸器機諸工具等は日本人の創意にして機巧特に秀つるもの又は其源を海外に取るも本邦に於て之に改良を加へたるもの又は源を海外に取らずに改良を加ふるに至らざるもの其製作の精巧外品と相競ぶに足るべきものに限る。
 一美術品は技術意匠の甚ぶべきは勿論殊に本邦風氣の高雅禮文の修明を表發し成るべく外人をして其計趣を曉知し易からしむべき旨を撰ぶ事。
 一日情眼争等の圖に於て彼の取を以し我の勝を誇耀するが如き圖の可成丈之を避くべき事。
 一美術工藝品は意匠、精巧、堅牢を主とし特に其趣味は十分本邦風趣の氣格を保持し而して外人の用其に應用するに足るべきものを撰ぶ事。
 一教育、學藝、社會、經濟、衛生、戰術、逸遊、土木、建築、音樂、印刷等は皆開明の態度を示す所以なり宜しく要を取り製作者の實物を以て示すべからざるものは或は肝要の規則法令等と翻譯し或は統計記帳を編纂する事。
 一參考品は普通品に在るは本邦物産の特異及富源等之類はすを目的とし古物又は美術品の數に在るは本邦既往の開明を示し又は本邦文物の高雅富麗を顯はすを以て目的とする事。

第二問 出品整理の方針
 一第一問の審議に於て決定する所の出品選擇の方針に基き事務局は主なる各團體に諮問し出品人の資格及物類選擇の標準を定め各地方長官に命じ其管内に於て出品に適すべき物類選擇及其物類の出品を奨励すべし。營業者又は地方の選擇を爲さしむべき尤も之が選擇に付ては商業會議所又は適當なる諸協會等と諸組合に諮問せしむ事。
 一但各官廳出品の事に就ては事務局に於て直に各官廳へ照會すべし。
 一地方長官は前項の手續に依り慎重なる監査を經て其意見を定め之を事務局に報告して其認可を受けしむる事。
 一事務局に委員若干名を置き出品人の資格出品數目並出品選擇の標準委員を爲さしむる出品種類數區別及出品の許否に關する事項を調査せしむる事。

▲博覽會評議員會議の結果 此島米農商務省接上の會議室に於て開會中なりし臨時博覽會評議員會は去る十四日を以て終了を告げたる由なるが今回同會への諮問は都合六案にして其審議修正可決したるもの比左の如くなりしと

第一問 出品選擇の方針
 一諸産物は既に貿易品として若干の販路を有し若くは幾多の販路を有するに至らざる。將來大に之を擴張するの見込あるものに限る。
 一諸器機諸工具等は日本人の創意にして機巧特に秀つるもの又は其源を海外に取るも本邦に於て之に改良を加へたるもの又は源を海外に取らずに改良を加ふるに至らざるもの其製作の精巧外品と相競ぶに足るべきものに限る。
 一美術品は技術意匠の甚ぶべきは勿論殊に本邦風氣の高雅禮文の修明を表發し成るべく外人をして其計趣を曉知し易からしむべき旨を撰ぶ事。
 一日情眼争等の圖に於て彼の取を以し我の勝を誇耀するが如き圖の可成丈之を避くべき事。
 一美術工藝品は意匠、精巧、堅牢を主とし特に其趣味は十分本邦風趣の氣格を保持し而して外人の用其に應用するに足るべきものを撰ぶ事。
 一教育、學藝、社會、經濟、衛生、戰術、逸遊、土木、建築、音樂、印刷等は皆開明の態度を示す所以なり宜しく要を取り製作者の實物を以て示すべからざるものは或は肝要の規則法令等と翻譯し或は統計記帳を編纂する事。
 一參考品は普通品に在るは本邦物産の特異及富源等之類はすを目的とし古物又は美術品の數に在るは本邦既往の開明を示し又は本邦文物の高雅富麗を顯はすを以て目的とする事。

第二問 出品整理の方針
 一第一問の審議に於て決定する所の出品選擇の方針に基き事務局は主なる各團體に諮問し出品人の資格及物類選擇の標準を定め各地方長官に命じ其管内に於て出品に適すべき物類選擇及其物類の出品を奨励すべし。營業者又は地方の選擇を爲さしむべき尤も之が選擇に付ては商業會議所又は適當なる諸協會等と諸組合に諮問せしむ事。
 一但各官廳出品の事に就ては事務局に於て直に各官廳へ照會すべし。
 一地方長官は前項の手續に依り慎重なる監査を經て其意見を定め之を事務局に報告して其認可を受けしむる事。
 一事務局に委員若干名を置き出品人の資格出品數目並出品選擇の標準委員を爲さしむる出品種類數區別及出品の許否に關する事項を調査せしむる事。

小間物化粧品各種

花王 洗粉
 花王 自慢
 花王 石鹼

大野金五郎

海軍御用商標

金城道人
 めいぼし
 精選銘法

大野金五郎

優等入香

石鹼

小林富治郎

田中花王堂

發賣元 小間物問屋各位ニ於て勉強擴張
 實任候御便宜御取引先へ御注文ノ程
 奉願上候

昨冬賣高三千萬個

乙女肌卸直段表

大野金五郎

優等入高評石鹼

小林富治郎

某氏の經濟談

我國今日の經濟事情を解釋せんといふは資本と通貨の供給と需用を委しく調査せざる可からず然しな

銀貨の下落と物價の騰貴

印度政府に於て銀貨の自由鑄造を禁止し米國政府亦其輸入を排棄するや奔馬の勢を以て下降し

戦後の事情

然るに戦後の事情は戦中生産的の資本を以て一時引致して之を全く消耗したるに拘らず其消費した

して現今一割五分の騰貴ありといふ實際統計家の云ふところなり去れバ銀貨下落と競争にて我國の

生産業

の中農家の繁榮は實に豫想外にして彼股銀と實に今日の事なり

企業家の勃興

戦前戦後の形前斯の如くなる為め種々の企業へ全圖到るところに起りて種々の事業を目論見たるも

前途の豫想

然らば此前途は果して如何物價は此儘に維持す可きか利足も亦此點に止まる可きか輸入物一切俱

日獨條約と特別輸出入港

歐米諸國にて貿易の爲め通商港を設くるに會て條約上の取定を以てしたるなどの例なく凡を港を

可しと云ふ

可しと云ふ

はき物 (時評) (前号の續)

上目とは木理の最も細かにして年数を経たるもの三十年位を經たるは上の部に木理の最も正しく最も細かなるは裏のみにて十圓以上を達するものあり中目は稍粗くして十年内外を經たるもの三四年に過ぎざる小木に至りては粗目と唱へて直段も亦隨て下直なり表も亦極精細せば裏のみにて十圓以上に達するものあれと右は好みの詠向と知る可し

貴婦人向 上目横証小町蓋(成可く高さ方)にて表は本南部、裏は本天丸物小標鼠色又は利久色、直段は四圓五十錢位

黒塗小町蓋にて表本南部又は麗表鼻緒細珍裏本天の腹合等最も高向なり直段は三圓五十錢位

令嬢向 黒塗にて高き品、又は「タ」蓋りをよしとす麗表は鼻緒は細珍裏本天の腹合、直段は三圓五十錢位

黒塗小町蓋、又は「タ」蓋り黒塗りに金時輪付、本南部細珍裏本天或は本天丸物、小標鼠雪の下色等、直段は四圓より三圓五十錢位

商人向 横証道場蓋、高さ二寸より一寸九分表は南部、鼻緒は市樂鹿裏、又は紅梅鹿裏、鹿鼠丸物等、直段は二圓五十錢位

職人向 上目横証道場蓋又は横証柳操蓋高さ一寸八分より一寸七分表は本南部、鼻緒は鹿鼠丸物、又は八幡丸物、鼠色又は御納月色の「フシヤ」丸物等、上等直段四圓位

尙証大阪(俗に月和)下駄巾三寸四分、形は角又は丸にて櫛羽、鼻緒は前同斷、直段は上等二圓位

藝人向 横証柳操蓋、又は横証跡丸蓋、本南部表、鼻緒は七珍細裏本天の腹合、甲州印傳繪、鹿鼠裏の腹合等、直段は上等四圓位

内備向 白木道場蓋、横証南部表、鼻緒は本天丸物色は黒御納月、利久色等にて直段三圓位

又は白木横証の東下駄、南部表、鼻緒前同備、上等直段二圓五十錢位

右の外雪取、亦近年流行し始めて昨今の賣口宜しく男物の上等品は蓋三枚に裏金は眞鍮を用ひ鼻緒に絹三筋鹿鹿の腹合にて三圓内外のもの紳士紳商の間に流行せり普通品は鼻緒だけ二枚にして鼻緒は凡て綴り物を用ひ此直段一圓五十錢前後のもの商店の手代等に行はる婦女子向に以上等蓋附三枚又は二枚にて鼻緒は本天丸物、色は小標鼠、雪の下等二圓五十錢位、又五十錢より八十錢内外のもの亦追々小学校の男生女生間に流行し始め其買口頗る宜しき方ありと云ふ (終)

▲地中電話設計書 東京及大阪の如き繁華の大都會に於ける電話線は日を追ふて其増加するに隨ひ風雨の剛激ある毎に往々断線せる事あり其他通信上不完全の點少なからずとて其前に於ては先向地に地中線を設け將來漸を以て現在の空架線をも改設せんとし交換局、技師工學士飯沼基太郎氏を大阪に出張せしめて測地に從事せしめつゝ、あり同氏の談なりとて大阪朝日に記す所を見るに右地中線既に横濱に埋設され實際上効用の全きものと認められあも費額莫大にして空架線の十數倍に上り連も一時に各地を通じ改設し難ければ通信網繁ならず土地は後進しと先づ東京大阪より着手する次第にて東京の分は約二十萬圓を按じ本局及び浪花分局(日本橋區浪花町)間に設け大阪は約十萬圓とし本局を中心に東へ東區、西へ西區、南へ南區、北へ北區を境とし此區域外にても費用の許す限り空架線を減せん考案なれば大坂の道路狹隘にして上下水道管地中に縦横し瓦斯管も亦近日埋設さるべければ地中電話線の埋設最も困難を感すべく場所によりては八尺以上掘下げざるを得ざる箇所あり諸歐洲(注文)の地中線用の鐵管其他の到着(來年)三月頃するべく工事落成の頃には今日迄の申込に對して多分器機を据付たるべしと

▲和蘭の東洋貿易擴張 和蘭は他の歐洲諸國と共に近頃一層東洋の形勢に注目し大に商賣を擴張せんと様々に計畫するが中に政府が先づ神戸上海を始め其他日支兩國の要港に領事館を設けんと目下考案中なりと云ふ

最新御まげ入 軍艦岳海屋 佐野善衛 岳善 横山町一丁目 小町の形 御文字の形 御てんがた 樂屋好 新小町形

移轉廣告 從店義各位之御引立... 幾久園

紀念石鹼發賣廣告 四方ノ華客益々御清康ノ由奉賀候本年ノ意外ノ御愛顧ヲ蒙リ厚ク奉謝候今般弊舎ニ於テ製造セシ紀念石鹼ハ日清戰爭ノ一大事件ニ關シ又戰爭中弊舎ノミ特別物價ノ騰貴ニ不關忍耐以テ廉價ヲ旨トシ只管顧客ノ便利ヲ計リシラ合セテ一ノ確乎タルノ紀念ヲ遺シ衆人ノ參考ニ供セシムルモ皆是一トシテ合念切手ノ發賣アリ弊舎雀躍直ニ之ヲ撰寫シ且ツ世人ノ高價ヲ拂フ集ムルヲ坐視スルノ便ヲ與ヘリ依テ名ヲ紀念石鹼ト稱セリ

此紀念石鹼ハ萬國ノ模造切手ヲ細密ノ印刷ナリ 此紀念石鹼ハ型ノ摸樣ハ貴顯ノ肖像ナリ 此紀念石鹼ハ高尙優美ナル体裁ナリ 此紀念石鹼ハ品質純良ニシテ有功無害ナリ 此紀念石鹼ハ二個入ニシテ年玉進物ニ適當ナリ 右紀念石鹼ハ發賣者ノ充分ニ腦ヲ絞リテ意ヲ注ギタルモノナリ豫期ヲ後レ本年ノ間ニ合テ遺贈ナカラ來年ヨリ賣出候間其期ニ及ビ候ヘバ續々モ文ヲラテテ備ヘ希望スル

販賣所ハ當市和洋小問物卸店ニ有リ 東京 芳誠舎石鹼製造所

▲臺灣の戸口其他 據に臺灣を巡視したる野田陸軍監理局長の調査に依れば基隆、臺北、新竹、苗栗、臺中、彰化、北平、雲林、嘉義、臺南、鳳山、打狗、澎湖島の十三ヶ所現住戸數四十四萬四千五百八十一戸内五万以上の戸數を有するは臺北、彰化、嘉義、鳳山、澎湖島の五ヶ所なり人口總計二百二十四萬二千三百二十八人内十萬以上を有するは臺北、新竹、臺中、彰化、雲林、嘉義、臺南、鳳山、澎湖島の九ヶ所なり又官船、便乗者を除き本年三月迄に基隆へ上陸せし内地人男一萬三千二百五、女二千七百二、内官吏五百四十五、農千六百九、工千八百九十八、商五千四百三十七、無職千六百七十一、雜業四千七百四十七にして熊本縣人は三千五百人以上鹿兒島縣人は千五百人以上東京、大坂、京都、兵庫、山口、廣島、長崎の各府縣人は五百人以上上陸せり又台灣人にして百萬圓以上の資産家十三月十萬圓以上の資産家十一戸一萬圓以上の資産家九十戸あり

▲乃木總督の施政方針 乃木臺灣總督が去る二日地方官諮問會の席上に於て演説したる施政方針は左の如し

客年六月創めて臺灣總督府を設けせらるゝに際し賊兵の清兵土賊と共に王師に抗し全島を擧げて一時兵馬の地たらめたり而して本年三月臺灣總督府條例を發布せらるゝに及んで行政の組織就緒未だ緒を欲し地を以て定まるも雖も百事草創庶政未だ緒を以て將來事の重要にして施政の全局に關係を及ぼすの類にあらざる以上は漸次之を地方適應宜の處分に一任し總督府の全局を統轄して各屬政務の進否と成績の如何とを監視して地方當路者の治績を見んと欲す

現在地方廳の下に更に下級行政機關を設置し之が更目の如き成るべく土人の傳授ある者を採用して以上下の情態を疏通し且行政の普及發達を計し以て最要急務なり而して今や之が調査漸く就む計畫亦將來熟せんす即ち經費を第十四帝國議會に求め明年四月を期して漸次之を實地に在りんと欲す人情風俗言語習慣を異にする本島に在りては各縣の政務警察の力を要するもの殊に多し故に將來天に警察力を増加し禍害を未然に防禦し以て不退の徒を屏息し良兵をして其業に安せしめ地方行政上道算立からしめんとす

政治の要は寛嚴度に通し恩威並行はれて人民をして其威に畏るゝと共に其德に服せしむるに在り本島施政に於て殊に其然るを見る然るに從來土民の内地人に對するものを見るに畏懼の念甚く熾にして常に鞭撻を以て之に加へんとすれば暴慢無禮動すれば侮辱を以て之に加へんとすれば其勢雨を以て之を收め兵馬を以て之に臨み砲彈雨を以て之を迫りて内地人種を接して渡來し其多數は戰勝の餘威を藉りて土民を虐過し物貨の買貸貸借に至るまで往々にして理に背き不法の損害を與へて秋毫意を爲さず

文武諸員に至りても亦或は職務上の威力を以て之に臨み一度命に従はざる者あるか又は罪の稍疑ふべし者あるに方りては直に之を縛し之を拘禁し其しきに至りては之を鞭撻する者あるを聞かざるを以て不法を説き無辜を斬りて雖遂に免かる能はざる者に至りては相率て之を嘲み罵詈雑言を以て之を辱はるゝに至りては顧みず此の如きもの兵馬は之を反抗を爲すに至りては顧みず此の如きもの兵馬は之の間往として止まらざれば怨憤漸く結んで民心に乖離し施政の障礙を見る實に甚しきに至らん況んや全島既に平穩に復し行政の事亦漸く緒に就かんとし民心の靜穩に復するを以て最要急務と爲すの今日に於て之を故に地方に官に在る者は自他互に相戒め深く常に茲に留意して速に弊習を一洗すべきなり若し尙ほ暴威を以て土民を虐過する者如き者ありば是れ實に我政令の施行を妨礙し國家の面目を汚辱せる者なるを以て其官撤たるも土民たるもを論ぜず斷乎として之を糾し法に違て處分するを怠るべからず

殖産興業運輸交通衛生教育諸事業の完備を期するは實に本島經營生及び移民上の急務たるのみならず土民をして其利便を享け良政を感服せしむるの捷徑たり而して其事業の全體に涉るものは總督府業已に之が計畫に著きせざるを以て成るべく其實行を速にすべし又其一地方に係るものは各屬に於て適宜計畫施行するを要す

本島土民の祖先以來規範として遵守したる習慣故俗は深く風習に浸潤して殆んど不文の法度となれりるものも其甚し本邦の定例に違ひ施政上の障礙たるものに至りては之を廢除すべきは論なし雖其習慣惡衣冠の如きは之を改むる否と士土人の自由を任ぜ又馬牌煙の如きは一定の制限の下に漸次防遏の効を收めんとす其他其良習たり美俗べきものは之を保護せしめて施政の利便に供すべし

以上述べたる所は地方行政に關して懷抱する所の旨趣の梗概なり而して其細部に至りては更に指示する所あるべし

第四回全國勸業博覽會一等賞狀受領

THE DIAMOND MARK AN EXCELLENT TOOTH POWDER

標商錄登

貴功

多磨下

きのみ

目丁巷町喰馬市京東 製謹氏尾平

本品は明治廿四年創業以來内外各地に非常なる好評を博し從て販賣高之多事日本全國中第一とす且品質之純良と價格之低廉なるは普く諸君の認むる處也

定價

袋入 小箱 二錢
 金箱 二錢
 金箱 二錢
 圓形鏡 八錢
 付入鏡 八錢
 金十錢
 大箱 十錢
 鏡付 十錢
 鏡付 十五錢
 高等名 十五錢
 木箱入 金十錢

元祖

濟録登御省務商農國肅本日大

東京馬喰町壹丁目

岳陽堂平尾贊平製

小町水

岳陽堂平尾贊平製

此水は...

小町水は...

岳陽堂平尾贊平製

定價

袋入 小箱 二錢
 金箱 二錢
 金箱 二錢
 圓形鏡 八錢
 付入鏡 八錢
 金十錢
 大箱 十錢
 鏡付 十錢
 鏡付 十五錢
 高等名 十五錢
 木箱入 金十錢

持ハ早や居眠るかと思へば芝居はなし男の時
は俄かに目を覺してしやべり出し何時の間にやら
男をこしらへ親が目とまわしたの伯母が死んだの
嘘ひひ散して主に親を乞ひ隠し男を忍び逃む親方
に一年と勤む事能はず半季立つ間を待たれて出
代りし口入屋へ行き同い奉公に日を送る者多し
是等の現世帯をするやうになり思ひ知るものな
り下女奉公をする人はよく慎み實体に勤め身
の出世を待つべき事 (と云ふ)

▲たわけ問答 (承前)

●腹も立す病をつなく道具を研ぎかかん
●祈禱もせぬ道具を研ぎかかん
●限りなき病の敷を四百四病と極るいかにかん
●千金方の薬に萬病九丸がせとせし其本人
●道法ならぬ豆腐の敷を一二二とせいかん
●丹にも塩らぬ高山の道を一合三合と云がせとせ
●嫌ひな人もある鰻魚をす身とせいかん
●炭薪を薪がから茶箱とはいかにせよとせ
●海川へ入る置屋の箱を水船船箱と云がせとせ
●膝下みの女に赤袴袴門馬の内侍はいかにせ
●男にも采女も女あるがごとし
●一ツの考へをも思(四)案とせいかん
●一ツの巧みをも工(九)夫とせいかん
●見もせぬ風邪を三田といかにかん
●買ものにもあらぬに廻町といふがごとし
●どまも木にもあらぬを馬鹿といかにかん
●魚類にあらぬに鯛といふがごとし
●「白輪」を天(十)十とせいかん
●「月」を天(十)十とせいかん
●手に持てる(箱)といかにかん
●「雨」を天(十)十とせいかん
●律儀なものも洗面といかにかん
●「あ」を天(十)十とせいかん
●来るもの(衣)といかにかん (未完)

▲昔はなし恋文章 (承前)

金原亭 馬之助

宗匠アノ武風といふ野人にも困ります 古池や蛙
のみ込む水の音と覺へて居ます三ツ子も知つて
居る翁の蛙とびひを吞むと云ふ云ふだけだ
のう「アノ人ハ蛙のみこむと云ふぞだ」女せへ
ハテ目くら蛇だものぞ

▲そは

立川 玉輔
源氏茶漬がはやりますら平家とばいと思つ
きやした先きれいに盛たのが清盛ゆりの出の
あつ盛、たゞ盛もさます同じかかはり、ど
も盛たんとあるのが宗盛「おれならその蕎麥を
みんな吹て銀を一せん置て出ます」女せへ「平家
の背一もんでないか

▲發句

春風亭 柳 枝
ふとん若て舞たる姿や東山といふが其様なおはき
な布圍もねへもんだ「ナニありやす一國ではは
どいよがある

▲あらす

金原亭 馬 石
鳥に双輪の孝ありと云つて名鳥サそで日の出
かうくも鳴さす「それはどな名鳥が月夜は
時でもねへ時分になくハ馬鹿なものだね「おれは
鳴さやうががはひます「なせハ「ハチあはう」
といひます

▲角力

登龍亭 鱗 蝶
若者等よつて相撲をとり居る處ハ高野聖たりて
取りけるに勝ものなかりけるゆゑみな「おそれ
て相撲のわざを教へたまへと云ふに俯こまりて全
く角方に妙を得たるにあらす聊かなす事ありて勝
たりといふに人々ゆるさず是非をせし給へといふ
に借外的事でない立合の時土砂をふりかけしと
云ふ

▲瀧園

林家 正 藏
六月十四日には瀧園像の祭りて浮興かきが大坂
からさます四條の橋の上で七草をふみやすが見事
なものさ江戸にははるめへ「ばかアいひねへ江戸
の天王様をかつくはは造酒のちへで風吹やらし
をふみや

▲川柳

柱 文 治
若公さへハ今流行の川柳風に「半蔵かばの
せなア能く愛へといひいじやアねハか「さうサ能
くふんべつとすればするはと宜ね (未完)

金原亭 馬之助

丸善商店發賣品廣告
婦人小間物 粧用品 各種
高野園 御櫛笄簪類 各種
新形花簪根掛手柄類
雲井織 改良鹿の子
改良蠟引紙壽賀
各種 櫛笄根掛花簪類
諸化粧品類 特約發賣
花の君御白粉 各種
花の君石 各種

東京橋町四丁目 丸見屋三輪善兵衛
花の君御白粉 各種
花の君石 各種
丸見屋三輪善兵衛
丸見屋三輪善兵衛
丸見屋三輪善兵衛



此商標粉は單に齒牙を清潔白ならまざるの効
中の惡臭を去るを以て常時之を用れば身壯健康強
壯にして神氣亦自ら發揚すべし
東京市橋山町一丁目
小問物問屋

定三二
價十六五
錢錢錢

本舖 岳海屋 佐野善衛製
特製 金鵝掛發賣廣告
改良蠟引紙壽賀製造主任 金坂天降

婦人の粧飾品は總て其品位或ハ模倣體裁等
何に因て大に其の品格に關する事就中髮掛品の如
其品野卑なれば之を用ふる人も亦自ら野卑なる
故に之を製出して常用に供する者其物品の精粗
に拘らず價格の高下を論ぜず宜しく高尚を旨とし
て飽まで日本婦人の優美を保たしめざるべからざ
是に於てか弊舖の販賣に係る諸物品ハ皆此趣旨に
基て製造するが故に一として高價を博せざる物な
きハ全國御得意諸君の無に熟知せらるゝ處なるが
今同社に發賣せし特別大長金鵝掛と稱するも亦
層の意匠を凝らし色合模倣等は古代に當世とを拆
衷して専ら流行に後れず時季を外さず金入金なし
打出しばかり等を始め他數十種いづれも高尚に
過す野卑ならず且つ美麗にして經濟と衛生とを兼
たる近來稀有の新製品なれば何卒舊に借して請
御注文ならん事も偏に希望する所なり

●婦人小問物類 高形時形彫刻
●進歩的時形 新形流行各種
●有名化粧品類 特約保證販賣
●改良蠟引紙壽賀 發賣元
●特製 蠟引紙壽賀 發賣元
●東京市日本橋區橋山町四丁目
●丸見屋善兵衛
●電話 浪花四四八番

廣告



○改良蠟引紙壽賀
改良蠟引紙壽賀製造主任 金坂天降

●獲て弊店に於て製造發賣する改良蠟引紙壽賀
●ハ多年の研究と製造の幸蒙に依り漸く今日の
●ハ美術の得たるものにして婦人髮掛品として
●ハ非ざるべしと信ず併に近來ハ是に類する
●ハ人非物も種々あるが故に或ハ半信半疑に
●ハ先づ試み現品を執り一試せられれば其
●ハ造の改良蠟引紙壽賀ハ假令雨天積雪若くハ
●ハ梅中と雖も決して融雪を帯び或ハ塵埃を生
●ハ等の憂ひなきハ勿論又如何なる極寒中と雖
●ハさしとて少くも粘着せず光澤は失はる
●ハを以て他を極め且つ高尚の品格を備へる
●ハ姿あれど此改良蠟引紙壽賀に在ては之の
●ハ反して大年中に於て愛用せられつゝ大に
●ハ固以上の御注文に於ては店舖として四週
●ハ萬一變色或ハ生じた時は直に換品にして
●ハ四季の氣候に拘らず物品の多少を論せず
●ハ御注文の榮を賜はる事ヲ一層目入

●本品の販路益々大なるに近頃似て非なる類
●似品を以て本品の顧客を購せんとする者甚
●々有之に候間御購求の際には本店の名義御注
●意を乞

●發賣元 東京橋山町四丁目
●改良蠟引紙壽賀本舖
●護謄壽賀本舖
●小問物問屋 丸見屋善兵衛
●電話 浪花四四八番

此雪の梅と稱する淨化粧用粉かしりて下ハ淨婦人方の傍身に取らば絶代の寶王と亦無上の幸福と
●も謂つべき古今無比天下の御念念なる斯くせば諸君に當り常々他大の法螺を購せられつゝあるが
●故に是も亦然らざるならん御念念なる斯くせば諸君に當り常々他大の法螺を購せられつゝあるが
●及び學士等の御法を折衷し之に多年の經驗に因り發明せし秘密の數品を加へて精製したる品なれば常
●此雪の梅を用ひたる淨化粧の第一色を白くし或ハ淡紅色を以て其の必要なし而して其用法は御入浴後又ハ湯水御使用の後顔
●糸に引等とも白粉の如く加へるに最上級の粉を多量に用ひれば其の必要なし而して其用法は御入浴後又ハ湯水御使用の後顔
●手に引等とも白粉の如く加へるに最上級の粉を多量に用ひれば其の必要なし而して其用法は御入浴後又ハ湯水御使用の後顔
●付取らば事なく自ら身に引等とも白粉の如く加へるに最上級の粉を多量に用ひれば其の必要なし而して其用法は御入浴後又ハ湯水御使用の後顔
●十通以上の御方にハ金銀製にて美術精巧を極めたる頗る優美麗麗の大看板を掲呈す
●製造元 小田原町三丁目 石黒尚天堂 發賣元 同日本橋區橋山町四丁目 丸見屋善兵衛
●全國有名の小問物化粧品問屋及藥店に於ても販賣す



東京橋山町四丁目
製造元 石黒 伊吉
發賣元 丸見屋善兵衛

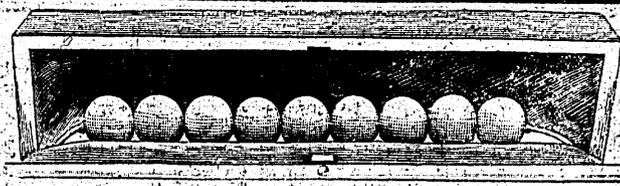
定價
貝入
一個 貳錢
三十個入一函
金屬器入
小一個 五錢
大一一個 廿錢
半ダース入
御賣
五掛

冬物帽子各種新荷相揃候間不相
變御用向被仰付度希望仕候

尙書面ニテ御注文之節ハ、角山、中山、中折、及色
●黒或ハ裏付、裏無、等概略ノ御指直ヲ以テ御用向
●被仰付候ハ、直段ハ最モ勉強致シ格好其他精々
●注意可仕候間何卒御引立之程奉願上候

東京馬喰町二丁目 (電話九二二)
長瀬富郎洋物店

專賣特許人造珊瑚珠



今般弊舖に於て發賣仕候
多入造珊瑚珠の備は製作者
多入造珊瑚珠の備は製作者
多入造珊瑚珠の備は製作者

(注意)
○五分 〇五分 〇五分
〇五分 〇五分 〇五分
〇五分 〇五分 〇五分

パイプ製造元
ライスペーパー各種
薄荷パイプ材
舶來パイプ問屋
東京市日本橋區
通し堀町四番地
菅谷爲吉



發賣元 化粧品 篠澤勘四郎
東京市神田區南神保町老荷屋

金鷄齒磨 價大箱入五錢 小箱入二錢
陸軍一等藥劑官細川一郎先生調劑
陸軍一等藥劑官細川一郎先生調劑

M 沼倉商店
東京市日本橋區
大傳馬場町一丁目

御祝儀用籠甲櫛笄製造卸賣所
製造本鋪 平尾贊平
東京市日本橋區馬喰町一丁目
電話浪花六百五十二番



歲末御禮申上候
本年中之格別之御引立蒙難有奉存候
向來春倍舊之御厚情奉願上候 謹言
御用キリン 香水製造所 篠崎又兵衛
東京市日本橋區馬喰町二丁目二番地

全世齒界之元帥
捷全陸海
商標 カチドキ
本植物性有効品にして日本藥局法所定の藥品を使用し且配劑中一二新藥
使用せざる重量の精神恍惚として爽快其靈妙なる奇効眞に豫想外たる
配伍なられたれば使用後

東京市日本橋區馬喰町一丁目
電話浪花六百五十二番
菅谷爲吉